

関東甲信越地区 事業報告書

－ 令和4年(2022年)度 －

申請法人: 学校法人順天堂

■□ 代表担当者 □■

井関 雅子

順天堂大学医学部附属順天堂医院
麻酔科学・ペインクリニック講座/ 疼痛制御学講座併任

■□ 連携施設と代表担当者 □■

慶應義塾大学医学部附属病院
千葉大学医学部附属病院
獨協医科大学病院
新潟大学医歯学総合病院
横浜市立大学附属市民総合医療センター
東京慈恵会医科大学附属病院
善衆会病院

小杉 志都子
大鳥 精司
山口 重樹
木村 慎二
北原 雅樹
倉田 二郎
恩田 啓

目次

| | |
|--------------------------|----|
| はじめに | 3 |
| 関東甲信越地区 慢性疼痛診療体制 | 4 |
| 順天堂大学医学部附属順天堂医院 | 9 |
| 慶應義塾大学医学部附属病院 | 21 |
| 千葉大学医学部附属病院 | 25 |
| 獨協医科大学病院 | 28 |
| 新潟大学医歯学総合病院 | 31 |
| 横浜市立大学附属市民総合医療センター | 38 |
| 東京慈恵会医科大学附属病院 | 48 |
| 善衆会病院 | 50 |

はじめに

慢性疼痛とは、「3ヶ月以上持続するまたは繰り返す痛み」と定義されています。過去の疫学研究において、日本人の慢性疼痛保有率は約30%で神経障害性疼痛保有率は約7%と報告されています。また疼痛の長期化により日常生活への支障、情緒面への影響から生活の質が低下することも知られています。そのため、高齢者においては自立支援の観点から、若中年者においては学校や社会生活を維持する目的で、慢性疼痛をコントロールすることは、非常に重要です。一方で、様々な要因が絡み合うことで、痛みが複雑化していくことも明らかにされております。さらに疼痛機序に関しては、侵害受容性と神経障害性疼痛に加えて痛覚変調性疼痛という概念が確立されつつあります。そこで慢性疼痛の診療において、よりいっそう多面的評価と多職種チーム医療の実現と推進が望まれています。これらの社会的ニーズに応えることを目的に本事業が立ち上がり推進されており、本年度において関東甲信越地区では、8つの痛みセンターが活動をしてまいりました。

令和4年度は、新しく立ちあがった1センターでの研修会も実現し、医科歯科連携も推進できた1年と考えます。なお前年度同様にWEBを利用することにより、専門性の高い講演に、地区内外から多くの参加者が得られたことも、教育面でも有意義であったと考えます。

本事業の遂行にあたり、ご協力くださいました全ての方々に感謝申し上げます。

2023年3月吉日

厚生労働省 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業
関東甲信越地区 代表担当者

井関 雅子

順天堂大学医学部附属順天堂医院
麻酔科学・ペインクリニック講座/ 疼痛制御学講座併任

関東甲信越地区 慢性疼痛診療体制

令和4年度の慢性疼痛診療体制に参画する痛みセンター及び連携機関は以下となる。

1. 【痛みセンター】

①：(施設名) 順天堂大学附属順天堂医院

(診療科) 麻酔科・ペインクリニック (整形外科 脳外科 脳神経内科 精神科 理学療法科連携)

(職種) 医師 臨床心理士 理学療法士 作業療法士 看護師

②：(施設名) 東京慈恵医科大学病院

(診療科) ペインクリニック：麻酔科(精神科 理学療法科 他科連携)

(職種) 医師 臨床心理士 理学療法士 看護師

③：(施設名) 横浜市立大学附属市民総合医療センター

(診療科) ペインクリニック：麻酔科(精神科 理学療法科 他科連携)

(職種) 医師 臨床心理士 理学療法士 看護師

④：(施設名) 獨協医科大学病院

(診療科) 麻酔科(精神科 理学療法科 他科連携)

(職種) 医師 臨床心理士 理学療法士 看護師

⑤：(施設名) 千葉大学医学部附属病院

(診療科) 痛みセンター：整形外科(精神科 リハビリテーション科 他科連携)

(職種) 医師 臨床心理士 理学療法士 看護師

⑥：(施設名) 新潟大学医歯学総合病院

(診療科) リハビリテーション科(精神科 理学療法科 他科連携)

(職種) 医師 臨床心理士 理学療法士 看護師

⑦：(施設名) 慶應義塾大学医学部附属病院

(診療科) 痛みセンター：麻酔科(精神科 理学療法科 他科連携)

(職種) 医師 臨床心理士 理学療法士 看護師

⑧：(施設名) 善衆会病院

(診療科) リハビリテーション科(整形外科 麻酔科 内科)

(職種) 医師 臨床心理士 理学療法士 看護師

2. 【 連携機関 】

- ① : (施設名) 順天堂大学大学院附属練馬病院
(診療科) 麻酔科・ペインクリニック (関連科連携可能)
(職 種) 医師 理学療法士 看護師
- ② : (施設名) 順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター
(診療科) 麻酔科・ペインクリニック (関連科連携可能)
(職 種) 医師 理学療法士 看護師
- ③ : (施設名) 順天堂大学医学部附属静岡病院
(診療科) 麻酔科・ペインクリニック (関連科連携可能)
(職 種) 医師 臨床心理士 理学療法士 看護師
- ④ : (施設名) 東京医科大学病院
(診療科) 麻酔科 (関連科連携可能)
(職 種) 医師 理学療法士 看護師 薬剤師
- ⑤ : (施設名) 日本大学病院
(診療科) 麻酔科 (関連科連携可能)
(職 種) 医師
- ⑥ : (施設名) 日本大学歯学部附属歯科病院
(診療科) ペインクリニック科 (関連科連携可能)
(職 種) 歯科医師 歯科衛生士
- ⑦ : (施設名) 日本大学医学部附属板橋病院
(診療科) 痛みセンター：麻酔科 (精神科 *必要に応じて他科連携)
(職 種) 医師 看護師 薬剤師 専属事務
- ⑧ : (施設名) 東京都立墨東病院
(診療科) 麻酔科 (関連科連携可能)
(職 種) 医師 看護師
- ⑨ : (施設名) 東京都立駒込病院
(診療科) 麻酔科 (関連科連携可能)
(職 種) 医師 看護師
- ⑩ : (施設名) 要町病院
(診療科) 緩和医療 ペインクリニック：麻酔科
(職 種) 医師 看護師 理学療法士

2. 【 連携機関・・・続き 】

- ⑪ : (施設名) 横浜市立大学病院
(診療科) 麻酔科 (関連科連携可能)
(職 種) 医師
- ⑫ : (施設名) 医療法人 八千代病院
(診療科) 精神科 ペインクリニック科
(職 種) 医師 看護師 臨床心理士
- ⑬ : (施設名) 長岡中央総合病院
(診療科) 整形外科 リハビリテーション科 麻酔科 (関連科連携可能)
(職 種) 医師 理学療法士 看護師
- ⑭ : (施設名) 新潟リハビリテーション病院
(診療科) 整形外科 リハビリテーション科
(職 種) 医師 理学療法士 看護師 臨床心理士
- ⑮ : (施設名) 西新潟中央病院
(診療科) 整形外科 リハビリテーション科 (関連科連携可能)
(職 種) 医師 理学療法士 看護師
- ⑯ : (施設名) 東京慈恵会医科大学附属葛飾医療センター
(診療科) 麻酔科 (関連科連携可能)
(職 種) 医師
- ⑰ : (施設名) 東東京慈恵会医科大学附属柏病院
(診療科) 麻酔科 (関連科連携可能)
(職 種) 医師
- ⑱ : (施設名) 東東京慈恵会医科大学附属第3病院
(診療科) 麻酔科 (関連科連携可能)
(職 種) 医師
- ⑲ : (施設名) 獨協医科大学日光医療センター
(診療科) 麻酔科 (関連科連携可能)
(職 種) 医師 看護師
- ⑳ : (施設名) 佐野厚生総合病院
(診療科) 麻酔科 (関連科連携可能)
(職 種) 医師 看護師

2. 【 連携機関・・・続き 】

- ⑳ : (施設名) 那須赤十字病院
(診療科) 麻酔科 (関連科連携可能)
(職 種) 医師 看護師
- ㉑ : (施設名) 獨協医科大学埼玉医療センター
(診療科) 麻酔科 (関連科連携可能)
(職 種) 医師 看護師
- ㉒ : (施設名) 古河赤十字病院
(診療科) 麻酔科 (関連科連携可能)
(職 種) 医師 看護師
- ㉓ : (施設名) 立原医院
(診療科) ペインクリニック
(職 種) 医師 看護師
- ㉔ : (施設名) 両国きたむら整形外科
(診療科) ペインクリニック 整形外科
(職 種) 医師 看護師 理学療法士
- ㉕ : (施設名) 社団法人 心の会 三輪医院
(診療科) 精神科
(職 種) 医師 看護師 臨床心理士
- ㉖ : (施設名) 慶成会歯科医院
(診療科) 歯科
(職 種) 歯科医師 歯科衛生士
- ㉗ : (施設名) ながたクリニック
(診療科) 整形外科 リハビリテーション科 皮膚科
(職 種) 医師 看護師 理学療法士

関東甲信越地区 慢性疼痛診療体制

3. 【口腔顔面痛学会18研修施設】

*一覧表添付:以前より連携機関である⑥日本大学歯学部を含む
(診療科) 歯科 (職種) 歯科医師 歯科衛生士

| 地域 | 施設名 | 部署名 |
|------|-----------------------|-------------------------|
| 茨城県 | 独立行政法人国立病院機構霞ヶ浦医療センター | 歯科口腔外科 |
| 埼玉県 | 明海大学歯学部附属明海大学病院 | 歯科麻酔科 |
| 千葉県 | 日本大学松戸歯学部附属病院 | 口・顔・頭の痛み外来 |
| | 東京歯科大学市川総合病院 | 歯科・口腔外科 |
| | 国際医療福祉大学成田病院 | 歯科口腔外科 |
| 東京都 | 東京医科歯科大学歯学部附属病院 | ペインクリニック |
| | 東京歯科大学水道橋病院 | ペインクリニック科 口腔顔面痛みセンター |
| | 慶應義塾大学病院 | 歯科・口腔外科 |
| | 日本大学歯学部附属歯科病院 *連携機関⑥ | ペインクリニック科 |
| | 日本歯科大学附属病院 | 口腔顔面痛センター |
| | 大森・東京歯科口腔外科 | |
| | 昭和大学歯科病院 | 顎関節症治療科 |
| 神奈川県 | 鶴見大学歯学部附属病院 | 歯科麻酔科 |
| | 国家公務員共済連合会横浜栄共済病院 | 歯科口腔外科 |
| | 川崎市立井田病院 | 歯科口腔外科 |
| | 神奈川歯科大学附属病院 | 歯科医科連携センター |
| | 神奈川歯科大学附属病院 | 口腔顔面痛みしびれ診療科 |
| 新潟県 | 新潟大学医歯学総合病院 | 歯科麻酔科診療室 |

順天堂大学医学部附属順天堂医院 の取り組み

代表者：井関 雅子

順天堂大学医学部 麻酔科・ペインクリニック講座
順天堂大学大学院 医学研究科疼痛制御学

1. 連携機関施設

以下に、順天堂医院のペインクリニック(痛みセンター)との直接医療連携施設機関を示す。

| 機関名 | 職種 職位 | 氏名 |
|--------------------------------|----------|-------|
| 順天堂大学大学院附属練馬病院 麻酔科 | 医師・准教授 | 田邊 豊 |
| 順天堂大学医学部附属 順天堂東京江東高齢者医療センター | 医師・教授 | 山口 敬介 |
| 順天堂大学医学部附属静岡病院 麻酔科 | 医師・准教授 | 洪 景都 |
| 都立墨東病院 麻酔科 | 医師・部長 | 鈴木 健雄 |
| 都立駒込病院 麻酔科 | 医師・部長 | 佐藤 洋 |
| 日本大学病院 麻酔科 | 医師・診療准教授 | 飯田 良司 |
| 日本大学医学部附属板橋病院 麻酔科 | 医師・助教 | 松井 美貴 |
| 日本大学歯学部附属歯科病院 | 歯科医師・教授 | 野間 昇 |
| 東京医科大学病院 | 医師・教授 | 内野 博之 |

2. 順天堂医院ペインクリニック(痛みセンター)の協力者

院内診療にあたっては、特に、理学療法科・整形外科・脊髄脊椎センター・脳神経外科 脳神経内科・緩和ケアセンターとの連携診療や各種疼痛カンファレンスを施行している。その他の診療科とも連携を施行している。

以下に臨床と研修会を中心とした協力者を示す。

| 所属 | 職種 職位 | 氏名 |
|----------------------------|----------|--------|
| 順天堂大学医学部麻酔科・ペインクリニック講座 | 医師・教授 | 山口 敬介 |
| 順天堂大学医学部麻酔科・ペインクリニック講座 | 医師・准教授 | 山田 恵子 |
| 順天堂大学医学部麻酔科・ペインクリニック講座 | 医師・助教 | 千葉 聡子 |
| 順天堂大学医学部麻酔科・ペインクリニック講座 | 医師・助教 | 濱岡 早枝子 |
| 順天堂大学医学部麻酔科・ペインクリニック講座 | 医師・助教 | 原 厚子 |
| 順天堂大学医学部麻酔科・ペインクリニック講座 | 医師・助手 | 河合 愛子 |
| 順天堂大学医学部麻酔科・ペインクリニック講座 | 医師・助手 | 池宮 博子 |
| 順天堂大学医学部麻酔科・ペインクリニック講座 | 医師・助手 | 西田 茉那 |
| 順天堂大学医学部麻酔科・ペインクリニック講座 | 医師・助手 | 岡田 薫 |
| 順天堂大学医学部麻酔科・ペインクリニック講座 | 医師・非常勤助手 | 菊地 暢子 |
| 順天堂大学大学院医学研究科疼痛制御学 | 臨床心理士 | 村上 安壽子 |
| 順天堂大学医学部附属順天堂医院 リハビリテーション室 | 理学療法士 | 会田 記章 |
| 順天堂大学医学部附属順天堂医院 看護部 | 看護師 | 黒田 妙子 |
| 順天堂大学大学院医学研究科疼痛制御学 | 研究生 | 藤井 百合子 |

3. 本年度目標としたもの

- ① 順天堂医院以外での当該地区での研修会主催者の育成
：日本痛み財団と共同
- ② 多職種育成のためのシンポジウム開催
- ③ 医科歯科連携の推進
- ④ 慢性疼痛診療連携のさらなる推進

4. 具体的内容

① 関東甲信越地区キックオフミーティング

関東甲信越地区の痛みセンターは、大学病院に所属したセンターであり、各地域における慢性疼痛診療の要となっている。それぞれの地域特異性があるため、関東甲信越地区全体での事業展開よりは、各痛みセンターが中心となり連携施設とも協力のもとに各地域での活動を施行することが、最良という意見で一致した。各地域での本事業の推進と相互協力を確認し、本年の抱負などに関して発表をいただいた。また講演として、関東甲信越地区におけるデジタル問診票の相互連携を目指した取り組みに関するお話を、青野修一先生と若泉謙太先生からいただいた。

1. 開会挨拶

井関 雅子（順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座 教授）

2. 講演 [テーマ] 関東甲信越地区におけるデジタル問診票の相互連携を目指した取り組み

■ 講演1 ■ 『痛みセンター共通問診票の現状と問題点について』

講師 | 青野 修一

玉川大学工学部ソフトウェアサイエンス学科・准教授

愛知医科大学医学部疼痛医学講座・客員研究員

■ 講演2 ■ 『施設ニーズに応じたデジタル問診票の分散管理システムの開発』

講師 | 若泉 謙太

慶應義塾大学医学部 麻酔学教室 助教

慶應義塾大学病院 痛み診療センター

3. キックオフミーティング

地区全体の痛みセンターの連携活動についての意見交換と具体的な立案に関するディスカッション

司会 | 井関 雅子（順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座）

1) 各痛みセンターの年間計画報告

2) 合同講演会や合同症例カンファレンスに関する検討

厚生労働省 令和4年度 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

**関東甲信越地区
キックオフミーティング** **令和4年度**

2022年8月1日(月)
20:00~21:30
※19:45入室開始予定

ZoomミーティングによるWEBライブ配信

総合司会(進行) | 順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座 教授 井関 雅子 先生

1. 開会の辞 - 順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座 教授 井関 雅子 先生

2. 『関東甲信越地区におけるデジタル問診票の相互連携を目指した取り組み』

講演1 『痛みセンター共通問診票の現状と問題点について』
【講師】青野 修一 先生 玉川大学工学部ソフトウェアサイエンス学科・准教授
愛知医科大学医学部疼痛医学講座・客員研究員

講演2 『施設ニーズに応じたデジタル問診票の分散管理システムの開発』
【講師】若泉 謙太 先生 慶應義塾大学医学部 麻酔学教室 助教
慶應義塾大学病院 痛み診療センター

3. 地区全体の痛みセンターの連携活動についての意見交換と具体的な立案に関するディスカッション

① 各痛みセンターの年間計画報告
② 合同講演会や合同症例カンファレンスに関する検討
③ その他

本会参加方法: アクセス方法につきましては、別途メールにてご案内させていただきます

主催: 厚生労働省 令和4年度 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 < 関東甲信越地区 >



② 痛みと心のカンファレンス

痛みセンターにおいて、心理職は各センターで1~2人と少数である。そのため、日々の臨床において未解決な課題を同職と語る機会も少ない。さらに他の職種から過度の期待も寄せられる中で、心理職の介入の高い適応となる患者以外へのアプローチが必要とされる場面も多い。そこで痛みセンターにおける心理職の役割や有用性と限界を明らかにして、多職種チーム医療を施行していく必要がある。このような願いから、平子雪乃先生からご講演をいただいた。その後多数の方々からのコメントを頂くと共に大いなるディスカッションを施行して、相互理解を深めることができた。

『多職種チーム医療の有用性と課題 ー心理専門職の立場からー』

講師 | 平子 雪乃 先生

杏林大学保健学部臨床心理学科 東京慈恵会医科大学附属病院ペインクリニック
国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター

総合司会: 順天堂大学医学部麻酔科学ペインクリニック講座 井関雅子

【コメンテーター】

- ・杉山 尚子 先生 (星槎大学大学院 教育学研究科 教授)
- ・長田 久雄 先生 (桜美林大学 大学院国際学研究科 老年学専攻 教授・老年学研究科長)
- ・村上 安壽子 先生 (順天堂医院 ペインクリニック 臨床心理士 / 公認心理師)
- ・山口 敬介 先生 (順天堂東京江東高齢者医療センター 麻酔科・ペインクリニック 科長/教授)

【スーパーオブザーバー】

- ・笠原 諭 先生 (東京大学医学部附属病院 痛みセンター)
- ・松平 浩 先生 (東京大学医学部附属病院 22世紀医療センター
運動器疼痛メディカルリサーチ&マネジメント講座特任教授)

厚生労働省 令和4年度 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

関東甲信越地区 / 順天堂大学 主催

痛みと心のカンファレンス

2022年
12月6日(火) 19:00~
*18:45入室開始予定

Zoom!による
WEBライブ配信

【総合司会】井関 雅子 先生 (順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座 教授)

① 開会の辞 ー 順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座 教授 井関 雅子 先生

② 講演
『多職種チーム医療の有用性と課題 ー心理専門職の立場からー』
講師 | 平子 雪乃 先生
杏林大学 保健学部 臨床心理学科
東京慈恵会医科大学附属病院 ペインクリニック
国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター

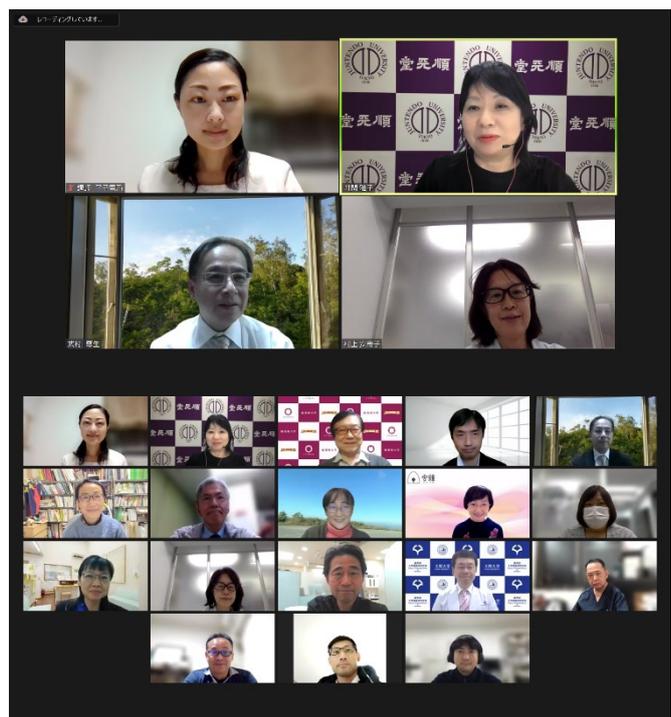
③ ディスカッション/質疑応答/コメントタイム
司会 | 順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座 井関 雅子 先生

コメンテーター |
杉山 尚子 先生 星槎大学大学院 教育学研究科 教授
長田 久雄 先生 桜美林大学 大学院国際学研究科 老年学専攻 教授・老年学研究科長
村上 安壽子 先生 順天堂医院 ペインクリニック 臨床心理士 (公認心理師)
山口 敬介 先生 順天堂東京江東高齢者医療センター 麻酔科・ペインクリニック 科長 / 教授

スーパーオブザーバー |
笠原 諭 先生 (東京大学医学部附属病院 特任臨床医)
松平 浩 先生 (東京大学医学部附属病院 22世紀医療センター 運動器疼痛メディカルリサーチ&マネジメント講座特任教授)

参加申込方法 以下のフォームより事前参加申込みをお願いします。
<https://forms.gle/Nuazj116tCWeuAhz8>
アクセス方法につきましては、参加申込後
別途メールにてご案内させていただきます

主催 厚生労働省 令和4年度 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業
関東甲信越地区 / 順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座



● 講師 コメント：痛みと心のカンファレンス

杏林大学保健学部臨床心理学科／東京慈恵会医科大学附属病院ペインクリニック外来
平子 雪乃

はじめに東京慈恵会医科大学附属病院ペインクリニック外来における集学的痛み治療の取り組みを紹介し、その後、心理職の視点から複数の専門職が参加する多職種協働のチーム医療の意義や今後の課題についての報告を行いました。

東京慈恵会医科大学附属病院ペインクリニック外来では麻酔科医、看護師、理学療法士、心理士が診療に従事し、患者の主訴や状態に合わせて柔軟に治療を組み立てています。専門職同士の関わり方として、富岡ら(2013)が多職種協働のモデルに示されているリエゾンモデル、コンサルテーションモデル、コンサルテーション・リエゾンモデルのそれぞれに該当する多様な連携が行われています。今回は心理専門職が参加した多職種協働の代表的な事例を紹介し、各モデルを適用する意義について考察を行いました。さらに、多職種協働に心理職が参加する上での実際の困難について示しました。

講義後のディスカッションでは、先生方から活発なご質問とご意見を頂戴し、当院の診療だけでなく全国の慢性痛診療の現状と課題を確認することができました。まず慢性痛診療に先んじて心理職の参入が図られている総合病院のコンサルテーション・リエゾンサービスや緩和医療など、他領域の実践における知見を参照し、より明確な多職種協働の枠組みを築いていく必要があると感じました。また臨床実践の中で新しい協働モデルの試みを行う、実践の幅を広げる取り組みが重要であることも感じました。また現場の先生方のご質問からは、慢性痛の患者を紹介できる心理職が見つけにくいという課題が浮かび上がり、心理職に対する研修機会や情報共有のためのプラットフォームの提供も今後の課題のひとつであると考えました。

以上のように、今後の研究および臨床活動に向けた豊かな示唆が得られた有意義なカンファレンスとなりました。この場をお借りして、井関雅子先生に心より感謝申し上げます。

③ 慢性疼痛診療ガイドライン研修会 in 東京

慢性疼痛診療ガイドライン作成WGが主催する症例検討会も含めたガイドラインの1日研修会に、関東甲信越地区の複数の痛みセンターからファシリテーターなども含めて協力体制をとり日本いたみ財団とも共同で共催して、厚労省の班研究活動との架け橋となる活動を施行した。

in東京
 定員50名
 参加費無料

慢性疼痛診療 ガイドライン研修会

開催日 2023年2月12日(日)
10:00~15:30 (受付開始 9:30~)

会場 全労連会館 2Fホール

対象 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士、心理士、ソーシャルワーカー等
医療従事者の方が対象となります。

参加者の方には本資料「慢性疼痛診療ガイドライン」を配布いたします

プログラム

9:30 開場 (事前アンケート回答)

10:00~10:15 慢性疼痛診療ガイドライン概論
仙台ペインクリニック 院長 伊達 久先生

10:15~10:55 薬物療法
京都府立医科大学 麻酔科学教室 准教授 上野博司先生

11:00~11:40 神経ブロック
奈良県立医科大学附属病院ペインセンター病院教授 渡邊恵介先生

11:45~12:25 リハビリテーション
神戸学院大学総合リハビリテーション学部 理学療法学科 教授 松原貴子先生

昼食(こちらで用意いたします)

13:10~15:20 グループディスカッション
15:20~15:30 まとめ・事後アンケート回答

日本いたみ財団のベジック
コース単位およびアワード
コース10単位が取得できます

参加申し込み方法 下記より申込を御願いたします
※定員になり次第締め切ります
<https://forms.gle/dSH7Vq3NavpVqBV7>

連絡先:事務局 仙台ペインクリニック TEL:022-236-1310

主催:慢性疼痛診療ガイドライン作成WG 共催:一般財団法人日本いたみ財団
共催:令和4年度慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業東京ブロック

④ 善衆会病院主催・順天堂医院共催 群馬地域第1回慢性疼痛診療研修会

大学病院以外の痛みセンターとして、令和3年度から善衆会病院に参画いただいている。群馬地区の慢性疼痛診療事業を推進するための中核病院であり、令和4年度は、順天堂医院共催で善衆会病院のスタッフの方々が主催となり、恩田啓先生を責任者として、群馬地域主催として初となる第1回慢性疼痛診療研修会が開催されました。恩田先生の指導のもとに善衆会病院のスタッフの方々は非常に高い慢性疼痛診療のスキルを有しておられることから、来年度からは独立して群馬地区の研修会開催などを施行していただくこととなった。

***本会詳細は、善衆会病院 事業報告をご参照ください**

厚生労働省 令和4年度 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 (関東甲信越地区)

慢性疼痛診療研修会

*群馬県/善衆会病院 主催

明日からの慢性疼痛診療に役立つ評価法と治療法を学び、グループディスカッションを行います。慢性痛に興味のある関係各位の皆様、お問い合わせのうえ、ぜひご参加ください。

日時: 2023年2月19日(日) 10:00~13:00 *入室開始 9:45

会場: オンライン開催 (ZoomミーティングによるWEBライブ配信)

対象: 痛みに関わる全ての医療従事者 *特に群馬県内の方
医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、公認心理師、ソーシャルワーカーなど ※関東甲信越地区の慢性疼痛診療医療従事者限定

参加費: 無料 ※定員20名 先着順 **※事前申込必須**

研修会プログラム

- ◇ 開会挨拶 善衆会病院 理事長 木村 雅史
- 1. 慢性疼痛概論・基礎知識 順天堂大学麻酔科/ペインクリニック講座 教授 井筒 雅子
- 2. 痛みの多面的評価 善衆会病院/医師 恩田 啓
- 3. 慢性疼痛患者に対する看護師の役割 善衆会病院/看護師 本 幸枝
- 4. 慢性疼痛に対する運動療法 聖徳大学病院/理学療法士 二瓶 健司
- 5. 一緒に症例を検討しよう *グループワーク
- ◇ 閉会挨拶/全体のまとめ 聖徳大学病院/理事長 蓋谷 邦夫

参加申込方法 ◎以下の事前参加申込フォームよりお申込みください。
<https://forms.gle/2PZ2xF92tmmB7zgF9>
= 申込期限 = 2月5日(日)まで *定員になり次第締め切
お問い合わせ先: 一般財団法人日本いたみ財団 事務局
Email: itamizaidan@gmail.com

主催: 厚生労働省「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業」関東甲信越地区
医療法人社団善衆会 善衆会病院 (群馬県)
共催: 順天堂大学 麻酔科学/ペインクリニック講座 一般財団法人日本いたみ財団

⑤ 痛みセンターにおける医科歯科連携に関するシンポジウム : 日本大学歯学部附属歯科病院 ペインクリニック科 共催

全体司会

井関 雅子 先生 (順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座 教授)

■ 講演

座長 | 日本大学歯学部 特任教授 今村 佳樹 先生

講演1 『難治性口腔顔面痛患者のアウトライン

～難治性患者の心理社会的評価と医療連携～』

講師 | 坂本 英治 先生 (九州大学歯学部)

講演2 『口腔顔面痛における学際的診療』

講師 | 渡邊 友希 先生 (昭和大学歯学部)

講演3 『慢性口腔顔面痛に対する医科歯科連携を考える

～集学的疼痛診療における歯科の役割～』

講師 | 野間 昇 先生 (日本大学歯学部)

■ 質疑応答/ディスカッション

司会 | 井関 雅子 先生 / 今村 佳樹 先生

【コメンテーター】

・田邊 豊 先生 (順天堂大学練馬病院 麻酔科・ペインクリニック)

・山口 敬介 先生 (順天堂東京江東高齢者医療センター 麻酔科・ペインクリニック)

厚生労働省 令和4年度 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

関東甲信越地区 / 順天堂大学麻酔科学ペインクリニック講座 共催

痛みセンターにおける 医科歯科連携に関するシンポジウム

2023年 2月 20日(月) 19:00~20:30
Zoomによるオンライン開催

【対象】 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、ソーシャルワーカー等、何らかの形で医療に携わっているもの

【全体司会】
順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座 教授 井関 雅子 先生

講演 歯科領域で難決する慢性口腔顔面痛のケース

座長 | 日本大学歯学部 特任教授 今村 佳樹 先生

講演1 『難治性口腔顔面痛患者のアウトライン～難治性患者の心理社会的評価と医療連携～』
講師 | 坂本 英治 先生 (九州大学歯学部) - 20分

講演2 『口腔顔面痛における学際的診療』
講師 | 渡邊 友希 先生 (昭和大学歯学部) - 20分

『慢性口腔顔面痛に対する医科歯科連携を考える～集学的疼痛診療における歯科の役割～』
講師 | 野間 昇 先生 (日本大学歯学部) - 20分

質疑応答/ディスカッション - 30分

司会 | 井関 雅子 先生 / 今村 佳樹 先生

コメンテーター
田邊 豊 先生 (順天堂大学練馬病院 麻酔科・ペインクリニック)
山口 敬介 先生 (順天堂東京江東高齢者医療センター 麻酔科・ペインクリニック)

参加申込方法 以下のフォームより事前参加申込みをお願いします。
<https://forms.gle/SCXsjgFHLMDtDSJb9> ▶▶▶

アクセス方法につきましては、参加申込後、別途メールにてご案内させていただきます



主催 厚生労働省 令和4年度 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 / 関東甲信越地区
日本大学歯学部附属歯科病院 ペインクリニック科



持続性特発性歯痛の発症メカニズム

① 局所因子
・炎症?
・神経障害性疼痛?

② 中枢神経系への移行

③ 痛みを感知

④ 中枢神経系

⑤ 中枢神経系

⑥ 中枢神経系

⑦ 中枢神経系

⑧ 中枢神経系

⑨ 中枢神経系

⑩ 中枢神経系

⑪ 中枢神経系

⑫ 中枢神経系

⑬ 中枢神経系

⑭ 中枢神経系

⑮ 中枢神経系

⑯ 中枢神経系

⑰ 中枢神経系

⑱ 中枢神経系

⑲ 中枢神経系

⑳ 中枢神経系

㉑ 中枢神経系

㉒ 中枢神経系

㉓ 中枢神経系

㉔ 中枢神経系

㉕ 中枢神経系

㉖ 中枢神経系

㉗ 中枢神経系

㉘ 中枢神経系

㉙ 中枢神経系

㉚ 中枢神経系

㉛ 中枢神経系

㉜ 中枢神経系

㉝ 中枢神経系

㉞ 中枢神経系

㉟ 中枢神経系

㊱ 中枢神経系

㊲ 中枢神経系

㊳ 中枢神経系

㊴ 中枢神経系

㊵ 中枢神経系

㊶ 中枢神経系

㊷ 中枢神経系

㊸ 中枢神経系

㊹ 中枢神経系

㊺ 中枢神経系

㊻ 中枢神経系

㊼ 中枢神経系

㊽ 中枢神経系

㊾ 中枢神経系

㊿ 中枢神経系

● 講師 コメント：慢性疼痛診療における医科歯科連携シンポジウム

九州大学病院 顎顔面口腔外科 口腔顔面痛外来
坂本 英治

関東地区の医科歯科連携シンポジウムに参加させて頂いたことを大変光栄に存じます。先生方とお話して、慢性疼痛診療では医療者—患者間および医療者—医療者間の相互理解が重要だと実感しました。

一般歯科から私たち(口腔顔面痛専門医)がご相談頂く場合はこんな感じです。

「とりあえず専門の先生に聞けと言われた」→うまくいかないこともあります。

「他の痛みがあると歯の痛みも続いて治療が進まないから、痛みの専門の先生に相談した方がいいと言われた」→断然うまくいくし、やりやすいです。

これは口腔顔面痛患者を心療内科/精神科、ペインクリニックなどをお願いする場合に重要視しています。

歯が、身体が原因だと固執する(一次性の要素の強い)慢性疼痛患者に対して、身体科として歯科の健康と病者の権利を保証しつつ、歯だけじゃない(違うところに問題がある)と歯科以外の診療科と連携することの必要性をご理解頂くこと、それを理解して自ら求めて踏み出して頂くための下地づくりが私たちの最も重要な役目と認識します。

私たち自身の技術向上のための学びの機会と慢性疼痛の実際を歯科界に発信する機会とが求められます。連携を考えるうえで全ての医療者に共通ではないかなとも思います。

紹介状に加えカンファレンスやちょっとした電話などからリアルな患者情報を共有すること、紹介先の先生がどんな方なのか、そのお顔と得意技まで知って相談できるような医療連携ネットワーク構築が楽しそうです。本事業の究極のゴールだと思いました。

昭和大学歯学部 スペシャルニーズ口腔医学講座 顎関節症治療学部門
渡邊 友希

この度はシンポジウムに参加させていただいたことを、大変ありがたく思っております。

平日の夜、診療終了後のお疲れの時間に医師や歯科医師、その他の職種も多くのご参加があり、医科歯科連携への関心の高さが伺われました。

あらためて、自分は目の前の患者との関係性で精一杯だったことに気付かされました。歯科の枠組みの中では、一般歯科の先生方と口腔顔面痛専門医とのさらなる連携強化の必要性を感じました。ただ慢性痛の外来はある程度、時間をかけてお話を伺う必要がありますが、患者が増えて忙しくなると一人一人にかける時間が減ってしまう・・・というジレンマがあります。志を同じくする仲間・後輩をさらに増やしていくことの重要性、また歯科衛生士との役割分担も積極的に進めていくべきと思いました。

多職種連携としては医師の先生方との連携は必須であることはもちろんのこと、心理士や理学療法士の方々に歯科領域の慢性痛に参入いただけると大変ありがたいと考えています。

口腔顔面痛領域の慢性痛患者がさまよってこじれることなく、適切な医療を享受することができるように、さらに多職種連携が進むことを望み、邁進して参ります所存です。

● 講師 コメント：慢性疼痛診療における医科歯科連携シンポジウム（・・・続き）

日本大学歯学部 口腔内科学講座

野間 昇

この度、第2回：痛みセンターにおける医科歯科連携に関するシンポジウムでは、慢性口腔顔面痛に対する医科歯科連携を考える「集学的疼痛診療における歯科の役割」というタイトルで講演させていただきました。第1回の慢性痛診療における医科歯科連携に関するシンポジウムでは「歯科から紹介を受ける症例(内容)には不明な点が多い」というご指摘を受けました。以上の指摘事項を踏まえ、痛みセンター(医科)へ紹介する際の注意点として、歯科疾患(歯原性歯痛)、器質的問題を除外していることを明記する、慢性痛の経緯を記載すること、代表的な歯科的病態(特発性持続性歯槽痛、口腔灼熱症候群)を共有することを挙げました。以上の点を加えることで医科診療において少しでも円滑に診療を進めることが期待できると思いました。次に慢性痛診療における歯科医師・歯科衛生士の役割として、歯科(当科)における疼痛管理の現状、現在の問題点(歯科単独)を提示。講演後、2名のコメンテーターの先生方から医科的立場からご助言をいただき、本学病院間での連携体制、他機関医科歯科連携(保険制度含め)において問題点があることを再認識するとともに、思い通りに進展していない現実を痛感しました。この問題解決するためには、本事業を通じ、医師、歯科医師、コメディカルの医療者とのディスカッションする場を設け、情報を共有するのが最善策と考えます。

● コメンテーター コメント：慢性疼痛診療における医科歯科連携シンポジウム

順天堂大学医学部附属練馬病院麻酔科・ペインクリニック

田邊 豊

コメンテーターとして参加させていただきました。日頃、慢性疼痛に関わる歯科の先生方と関わることは少なく、今回、ご講演を大変、興味深く、楽しく拝聴させていただきました。慢性口腔顔面痛においても多職種による集学的治療は大切です。それを行うためにどのようにシステムを構築していくか、今後の検討が必要と感じました。現在、開設・開始されているいくつかの医科中心の「痛みセンター」に歯科医が介入し関わっていくのか、まず歯科医の中で痛みセンター的な役割のある施設を作り、システムを構築し連携を保っていくのか、今後、さらに模索・検討していくことが大切と思います。また歯科領域の慢性の痛みを診療する上で歯の慢性痛ではなく、訴えている一つの症状が歯であると捉えることの重要性を再認識いたしました。やはり“歯”の痛みが訴えられた場合、歯科医の関わりは必要となります。一般歯科医の慢性疼痛に対する教育や慢性口腔顔面痛を専門にしている歯科医との連携の重要性も考えさせられました。歯科衛生士の役割の可能性もとても興味深く感じます。いずれにしても痛みに関わる医師・歯科医師が、情報交換し連携していくことは必須であり、このようなシンポジウムは患者の痛み治療において非常に有用であると感じました。

順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター 麻酔科・ペインクリニック

山口 敬介

厚生労働省令和4年度慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業痛みセンターにおける医科歯科連携に関するシンポジウムに参加した。慢性口腔顔面痛に対しての治療の実際について、大変わかり易くご解説頂いた。症例提示では実際の診療例をご紹介頂き、本領域における診察方針や学際的診療の必要性が理解できた。

口腔顔面痛は、医科の医療従事者にとっても難解な痛みであり、診療に苦慮することが多い。歯科口腔外科医による専門的な評価により歯原性・非歯原性かを見極めることは、医科治療における第一歩であり、非常に重要な情報となる。今回のシンポジウムでも歯科口腔外科医が集学的医療に関与している痛みセンターが未だ少ないということが課題として挙げられていた。すべての患者を専門外来や集学的痛みセンターで治療することは難しいが、一般診療レベルでの判別がスムーズに行われることが重要である。医科歯科両領域での慢性疼痛に対する卒前・卒後教育の充実が必要であり、このようなシンポジウムでの連携が非常に有用であると感じた。本領域に対する関心の高さが窺えた、充実したシンポジウムであった。

⑥ 順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座 主催 令和4年度慢性疼痛診療研修会

研修会の主催者育成のため、順天堂東京江東高齢者医療センター 麻酔科・ペインクリニック 教授 の山口 敬介先生に主催者を務めていただき、WEBによる 研修会を施行した。受講者も多職種でバランス良く研修会を施行することができた。

講師:

山口 敬介、山田 恵子、池宮 博子、濱岡 早枝子、西田 茉那、村上 安壽子、会田 記章

ファシリテーター:

城 由起子、武村 尊生、坂野 裕洋、篠原 佑太

受講者内訳/職種別人数:

医師10名、歯科医師2名、心理士3名、看護師2名、理学療法士2名、作業療法士1名、薬剤師1名

慢性疼痛診療研修会 参加費 無料

厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業（関東甲信越地区 順天堂大学）慢性疼痛診療研修会を開催いたします。参加対象者は関東甲信越地区の施設勤務の医療従事者に限定させていただきます。

日時： 2023年2月25日（土）14:00~17:30（受付 13:45~）

会場： ZoomによりWEBライブ配信

対象： 医師、歯科医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、ソーシャルワーカー、介護士、その他の医療従事者

募集定員： 30名

研修プログラム

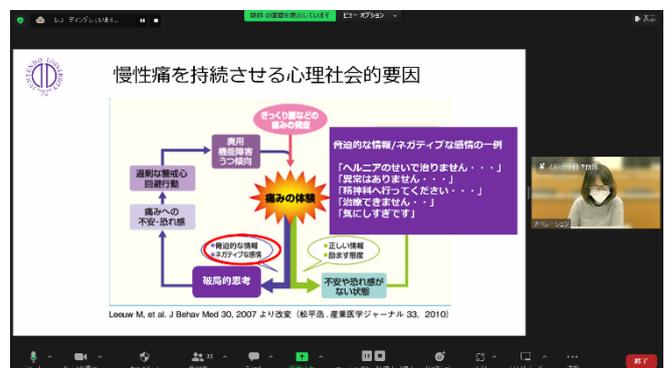
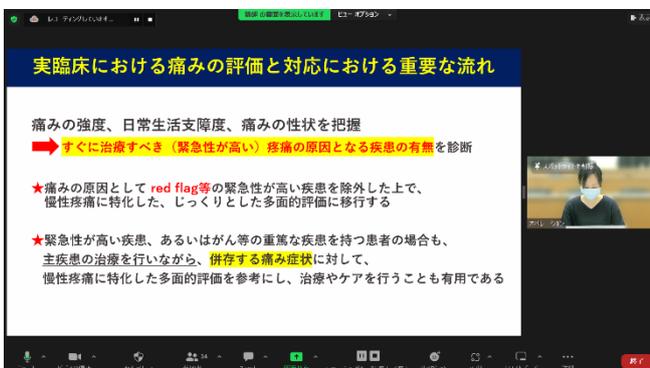
| | |
|---------------------------|----------|
| 1. 痛みの多元性を知ろう！ 15分 | 講師：山口敬介 |
| 2. 慢性疼痛の分類 ICD-11を知ろう 20分 | 講師：山田恵子 |
| 3. 痛みの多面的評価を知ろう 20分 | 講師：池宮博子 |
| 4. 薬物療法と神経ブロック療法 30分 | 講師：濱岡早枝子 |
| 5. 心理療法 20分 | 講師：村上安壽子 |
| 6. 運動療法 20分 | 講師：会田記章 |
| 7. 症例検討 50分 | 講師：西田莉那 |

参加申込 <https://forms.gle/6EpbHt1TieKGJBG8>

申込期限 2月15日まで 定員になり次第締め切ります

お問合せ先：一般財団法人日本いたみ財団 事務局
Email: itami@itami.or.jp

主催：慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 関東甲信越地区 順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座
共催：一般財団法人日本いたみ財団



● 令和4年度 順天堂大学 慢性疼痛診療研修会を主催して

順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター 麻酔科・ペインクリニック
山口 敬介

2023年2月25日に一般社団法人痛み財団のプログラムによる厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業（関東甲信越地区 順天堂大学主催）慢性疼痛診療研修会を開催した。コロナ禍が続いた今回も、昨年に引き続きオンライン開催となった。事前に疼痛医学のテキストを配布し、当日は講義とZoomブレイクアウトルーム機能を利用しての症例検討グループディスカッション形式で行われた。グループディスカッションでは、ファシリテーターを含む3-6人程度のグループに分かれて、提示された症例についての検討と意見交換を行った。多職種の参加があり、活発な意見がだされ、オンラインながらも充実したディスカッションができた。

今回は、順天堂東京江東高齢者医療センター職員を中心に、江戸川区、江東区医師会へ通知して参加者を募った。医師（内科、神経内科、麻酔科、整形外科）、歯科医師、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士など幅広い職種の参加者が集まった。当初26人の応募があったが、当日の参加者は21人であった。また、都合により途中退席した参加者もあり、最終的な研修終了者は18人であった。途中退席に伴い、グループディスカッションの人数が3人のみのグループも生じた。募集時にディスカッションへの参加が必須であることを強調すべきだったかも知れない。

当センターでは高齢患者が多く、運動器疼痛を含めた慢性疼痛患者の割合も高い。高齢者医療に関わる全ての職種が、高齢者の特徴と慢性疼痛の基礎的な知識を持ち、生活者としての視点を持ち合わせることも大切である。運動器疼痛のみならず、口腔顔面疼痛を含めたあらゆる慢性疼痛疾患の特性を十分理解することが重要であり、今後の研修への参加者が増えることを望む。今後は、本事業の目的の一つである地域連携構築にも力を入れ、地域における疼痛治療の中核としての役割を拡大させていきたいと考えている。

慶應義塾大学医学部附属病院

代表者：小杉 志都子

慶應義塾大学医学部 麻酔学教室

院内協力者

慶應義塾大学医学部 麻酔学教室

篠原 佑太
若泉 謙太
星野 麗子
本田 あやか
高岡 早紀

慶應義塾大学医学部 整形外科学教室

辻 収彦

慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室

藤澤 大介
田中 智里
眞島 裕樹

慶應義塾大学医学部 リハビリテーション医学教室

石川 愛子
川上 途行

本施設におけるモデル事業の目標

本施設は、約35の関連教育中核病院を所有する大学病院の特性を利用し、慢性疼痛診療構築モデル事業を通じて、慢性疼痛診療に精通する医療人の教育・排出を目標としました。また、新宿区・中野区・杉並区を中心とした地域の基幹病院としての役割を生かし、連携医療機関に慢性疼痛診療の情報を発信し、医療紹介連携を深めることも目標としました。本年度も、歯科口腔外科との連携を深めるとともに、神経内科と心療内科の内容を含めた頭痛・口腔顔面痛の診断・治療に関連する教育にも取り組みました。

モデル事業の内容の実際

1. 慶應義塾大学 慢性疼痛診療研修会

開催日 令和4年 9月 11日 (日) 9時～12時30分

場所 Zoom開催

参加者 17名

慶應関連病院および近隣医療機関の医師・歯科医師・臨床心理士・理学療法士・看護師を対象とした慢性痛診療(痛みの多元性・ICD-11・症例を知ろう・痛みの多面的評価・運動療法・薬物療法・症例検討)に関する研修会を開催しました。Zoomのブレイクアウトルームを利用してグループディスカッションを行い、各グループの意見を共有しました。

令和4年度 厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

慢性疼痛診療研修会

明日からの慢性疼痛診療に役立つ評価法と治療法を学び、グループディスカッションを行います。
慢性疼痛に興味のある方は、是非お気軽にご参加ください。

日時 令和4年9月11日(日) 9:00～12:30
場所 Zoom 開催
※参加の際にはzoom推奨環境をご確認ください

医師・歯科医師・看護師・理学療法士・作業療法士・臨床心理士・ソーシャルワーカー・薬剤師

研修会プログラム

1. 痛みの多元性を知ろう
2. 慢性疼痛の分類: ICD-11を知ろう
3. 症例を知ろう
4. 痛みの多面的評価を知ろう
5. 痛みの治療を知ろう
6. 症例を体験しよう

参加費無料
定員30名

参加申込

URL: <https://bit.ly/39o1Qse>
申込期限 9月 3日まで 定員にのみ次第締め切ります
 お問合せ先: 一般財団法人日本いたみ財団 事務局
 Email: itamizaidan@gmail.com

主催: 厚生労働省「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 関東甲信越地区」
 慶應義塾大学痛み診療センター
 共催: 一般財団法人日本いたみ財団

2. 慶應義塾大学 慢性疼痛診療研修会

「明日からの診療に役立つ頭痛・口腔顔面痛診療 Q and A」

開催日 令和4年 10月 5日 (水) 19時～20時40分

場 所 Zoom開催

参加者 62名

慶應関連病院および近隣医療機関の医師・歯科医師・歯科衛生士・臨床心理士・理学療法士・看護師を対象とし、「明日からの診療に役立つ頭痛・口腔顔面痛診療 Q and A」と題して歯科口腔外科、神経内科、心療内科の先生方に、頭痛・口腔顔面痛の診療の最新の情報を発信していただきました。

慶應義塾大学病院神経内科の滝沢翼先生には、頭痛の鑑別で注意すべき点や機能性頭痛の薬物療法についてお話いただきました。慶應義塾大学医学部歯科口腔外科の白田頌先生には、非歯原性口腔顔面痛の病態と要因および非歯原性口腔顔面痛の非薬物療法についてお話いただきました。東邦大学医療センター大森病院心療内科の端詰勝敬先生には、慢性頭痛に対する認知行動療法について症例検討を含めてお話いただきました。講義の最後に、座長である慶應義塾大学医学部麻酔学教室 小杉志都子と交えて、座談会形式で実りのあるディスカッションを行うことができました。

令和4年度 厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

慶應義塾大学 慢性疼痛診療研究会

明日からの診療に役立つ頭痛口腔顔面痛Q and A

この研修会は、頭痛口腔顔面痛の診断・評価・治療に関する知識を深め、医療機関・診療科・職種の特長を越え、連携体制を強めることを目的としています。

日時: 令和4年10月5日(水)19時～20時40分
場所: Zoom 開催

※参加の際にはzoom推奨環境をご確認ください

参加者対象
医師・歯科医師・理学療法士・作業療法士・臨床心理士・公認心理師・薬剤師・ソーシャルワーカー

プログラム

司会: 慶應義塾大学病院痛み診療センター 小杉 志都子

19:00-19:30
● 頭痛診療 Q and A
慶應義塾大学病院神経内科 滝沢 翼

19:30-20:00
● 非歯原性口腔顔面痛 Q and A
慶應義塾大学病院歯科口腔外科 白田 頌

20:00-20:30
● 頭痛に対する心理的アプローチ Q and A
東邦大学医療センター大森病院心療内科 端詰 勝敬

20:30-20:40
● 質疑応答

参加登録
→ <https://onl.la/yCyDZIZ>



3. iPad問診票の開発

慢性疼痛の医療連携の一環として、各連携施設で使っていただけるよう、iPadを利用した問診システムを作成しました。問診システムは、慢性疼痛の部位を選択できる体のシエマおよび多様な疼痛関連質問票を搭載しており、各施設のニーズに応じて質問票を選択できることが特徴となっています。

4. 運動療法のハンドブック作成

慶應義塾大学病院痛み診療センターにおける集学的治療における運動療法の患者教育用のハンドブックを作成しました。本ハンドブックは、専門医の監修のもと作成され、集学的治療の知識を深めるための患者教育用 教材として使用しました。

得られた成果や感想

本年度は新しい試みとして歯科口腔外科、神経内科、心療内科との連携を図る目的で、頭痛・口腔顔面痛に関する研修を行いました。頭痛は、コモンディーズでありながら、既存の方法に抵抗性の難治性の痛みを苦しむ患者さんは多く、新しい薬剤への期待や心理的アプローチの有効性など、各領域のエキスパートの先生方の実臨床での経験を踏まえ、実りあるディスカッションを行うことができたと思っています。また、口腔顔面痛は、医科の医療従事者にとって難解な痛みであり、診療に苦慮することが多いのが現状です。歯科口腔外科医による専門的な評価により痛みの原因を見極めることは、治療法を決定するために非常に重要と考えます。今回、口腔顔面領域の筋筋膜性疼痛に対するマッサージなどユニークな治療の試みもお話いただきました。昨年同様、人気の研修会であり、参加者も非常に多く、この領域に対する関心の高さを伺えました。

その他（自由記載）

頭痛・口腔外科研修会でご講演いただきました東邦大学医療センター大森病院心療内科 端詰勝敬先生、慶應義塾大学病院神経内科 滝沢 翼先生、慶應義塾大学病院歯科口腔外科 臼田 頌先生、慢性疼痛診療研修会の講師を務めていただきました神田痛みのクリニック 西村 大輔先生、本事業の代表者である順天堂大学 井関 雅子先生、いたみ財団 内藤理恵さんのご協力を賜り、滞りなく本学での慢性疼痛診療研修会を遂行できたことを感謝いたします。

活動報告

千葉大学医学部附属病院

大学名：千葉大学
所属：千葉大学医学部附属病院 痛みセンター

院内協力者

| 医師名 | 役職・職位 | 専門分野 |
|--------|-----------------------|---------------------------------------|
| 大鳥 精司 | センター長、教授(整形外科) | 腰椎 |
| 清水 栄司 | 副センター長、教授(認知行動療法センター) | 認知行動生理、認知行動療法 |
| 田口 奈津子 | 副センター長、診療教授(緩和ケアセンター) | 緩和医療学、疼痛治療学 |
| 横手 幸太郎 | 教授(糖尿病・代謝・内分泌内科) | 糖尿病、脂質異常症、動脈硬化症、高齢者の病気、早老症 |
| 村田 淳 | 診療教授(リハビリテーション科) | リハビリテーション医学全般、電気生理診断学 |
| 長谷川 直 | 特任講師(精神神経科) | 一般精神医療、リエゾンコンサルテーション精神医学、気分障害、精神腫瘍学 |
| 椿 佳那子 | 医員(精神神経科) | 一般精神科医療、認知行動療法 |
| 三澤 園子 | 准教授(脳神経内科) | 神経疾患全般、臨床神経生理、末梢神経疾患、ボツリヌス治療、POEMS症候群 |
| 水地 智基 | 特任助教(脳神経内科) | 神経疾患全般、末梢神経疾患、臨床神経生理 |
| 水野 裕子 | 助教(麻酔・疼痛・緩和医療科) | 臨床麻酔、疼痛治療学 |
| 稲毛 一秀 | 副センター長、助教(整形外科) | 整形外科、脊椎脊髄病、骨粗鬆症、サルコペニア、側弯症 |
| 大橋 範之 | シニアレジデント(和漢診療科) | 和漢診療学 |
| 高井 啓有 | 助教(麻酔・疼痛・緩和医療科) | 臨床麻酔・疼痛治療学 |
| 竹生 浩人 | 医員(麻酔・疼痛・緩和医療科) | 臨床麻酔・疼痛治療学 |
| 中村 貴子 | 副薬剤部長 | 薬剤部 |
| 市原 章子 | 患者支援部 | 医療ソーシャルワーカー |
| 清水 啓介 | 特任助教(千葉大学未来医療教育研究機構) | 臨床心理士、公認心理士 |

連携病院名

JCHO船橋中央病院・西川整形外科・タムス浦安病院・富士整形外科病院・聖隷佐倉市民病院
北千葉整形外科幕張クリニック・北千葉整形外科美浜クリニック・北千葉整形外科稲毛クリニック
山王病院・きぼーるクリニック・さんむ医療センター・国府台病院整形外科

1. これまでの活動内容

2019年7月1日に 千葉大学医学部附属病院 痛みセンター を開設いたしました。現在は整形外科医1名、麻酔科医1名にて初診および再診の対応を行っています。また、既存の診療部門である整形外科、糖尿病・代謝・内分泌内科、麻酔・疼痛・緩和医療科(ペインクリニック)、精神神経科、脳神経内科、リハビリテーション科、総合診療科、和漢診療科、緩和ケアセンター、認知行動療法センターなど複数の部門との強固な連携も行っています。特に、これらの診療科の医師、看護師、公認心理師(臨床心理士)、理学療法士、作業療法士、ソーシャルワーカー、薬剤師など、異なる専門スタッフが、相互に連携(院内紹介や 毎週実施する多科多職種による症例カンファレンス、1カ月に1回の合同カンファレンスなど)し、個々の患者さんの痛みの原因究明とそれに対する適切な治療(集学的治療)を行っています。

2. 本年の千葉県におけるモデル事業の目標

千葉大学医学部附属病院痛みセンターを中心とし、地域の難治性疼痛に関する連携体制強化を目標として活動しています。

3. モデル事業の内容の実際

千葉県の医療施設に勤務する医師、コメディカルを対象に慢性疼痛診療研修会(厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業)を実施(図1)しています。

また、千葉県下の多施設多職種からメンバーを募り、千葉total pain management(TPM)WGを組織しています(総勢62名)。本WGでは参加メンバーの痛み診療レベル向上のため、定期的にwebセミナーを開催しています。加えて、運動療法を中心とした慢性疼痛治療アプリ(メインは患者用リハビリ動画)を開発中です。

更に、千葉大学医学部附属病院痛みセンターと協力施設(医療法人社団城東桐和会タムス浦安病院)が連携し、難治性疼痛患者に対する入院リハビリテーション依頼および連携施設の痛み診療レアルアップのためのコメディカルに対する痛み診療に関する研修会実施も行っています。

図1 令和4年度 慢性疼痛診療研修会

令和4年度厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

慢性疼痛診療研修会

明日からの慢性疼痛診療に役立つ評価法と治療法を学び、グループディスカッションを行います。
慢性痛に興味のある方は、ぜひお気軽にご参加ください。

日時 2023年1月29日(日)
14:00~17:00(受付13:45開始)

開催形式 Zoomオンライン会議システム

参加対象 千葉県を中心とする関東地区に勤務の医療従事者
慢性痛に関連する職種

医師・歯科医師・看護師・理学療法士・作業療法士・臨床心理士・公認心理師・ソーシャルワーカー・薬剤師・その他

参加費 無料
定員 30名

- 慢性疼痛患者への薬物療法
- 慢性疼痛患者への運動療法
- 慢性疼痛患者への心理的アプローチ
- 慢性疼痛患者への社会的アプローチ
- 症例検討

参加をご希望の方は下記よりお申し込みください
<https://forms.gle/qM4tUE46WxPmDJA8A>

【主催】厚生労働省「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 関東甲信越ブロック
千葉大学大学院 医学研究院 整形外科

【共催】一般財団法人日本いたみ財団
お問い合わせ先: 一般財団法人日本いたみ財団 事務局
Email: itamizaidan@gmail.com

4. 得られた成果や感想

研修会終了後のアンケートでは以下のような回答がありました。

- ・各専門スタッフによる、具体的な事例が聞けて良かったです。また、ディスカッションも非常に有意義でした。
- ・慢性疼痛に関して多職種の方々に講義頂き、視野が広がりました。
- ・臨床心理の先生方、ソーシャルワーカーの方々がどのようにアプローチして頂いているかを理解でき非常に勉強になった。また、ディスカッションを通じ多くの方と知り合いになる機会があり、今後に生きると考えております。
- ・PTなど他職種の考え方や患者への関わり方が知れたのが良かったです
- ・様々な観点(職種)から症例報告が聴取出来て勉強になりました。
- ・多職種の意見を聞けて良かったです。CBTの講義はとてもわかりやすかったです。
- ・ソーシャルワーカーの先生や臨床心理士の先生の具体的な症例や実際の解決方法など教えてもらって、とても勉強になりました。

5. その他

当痛みセンターの最重要課題として以下の 2 点を実施していきます。

① 薬剤適正使用の推進

関連施設と連携し千葉県における疼痛関連薬剤の適正使用を推進して行きます。特に強オピオイドのむやみな使用を撲滅したいと考えております。現在、多科多職種の協力を得ながら強オピオイド離脱プログラムを作成中です。

② 当痛みセンターオリジナルの難治性疼痛改善プログラム作成

以下の 3本柱 についての統一プロトコール(スマホアプリ)を作成中です。

1. 運動療法
2. 認知行動療法
3. 栄養指導

獨協医科大学病院

研究分担者

獨協医科大学医学部麻酔科学講座 教授

山口 重樹

研究協力者

獨協医科大学医学部麻酔科学講座 准教授

木村 嘉之

獨協医科大学日光医療センター麻酔科 診療科長

藤井 宏一

院内協力者

獨協医科大学病院総合がん医療センター緩和ケア部門 部門長

白川 賢宗

獨協医科大学医学部 麻酔科学講座 講師

寺島 哲二

獨協医科大学医学部 麻酔科学講座 助教

山中 恵里子

東北福祉大学 福祉心理学科 准教授

武村 尊生

上智大学 総合人間科学部 心理学科

増田 紗弓

1) 成果概要

昨年度に引き続き慢性疼痛診療に関する啓蒙と医療者養成のための研究会を行った。昨年度の受講者からディスカッションの時間を増やしてほしいという要望があったことと本事業は地域連携を強化することも目的としているため、日本いたみ財団作成の共通コンテンツの講義内容を一部割愛し質疑応答および症例検討の時間を設け、受講者間での情報共有や医療者連携のきっかけとなるよう計画した。研修会には北関東を中心とした医師、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士、心理師など幅広い職種の参加者が集まった。本年度の特徴として緩和ケアに携わる医師の割合が高かった。アンケート結果からはがん治療領域でも長期にわたる痛み診療に難渋していることがうかがえたと同時に、緩和ケア領域においても本慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業の研修プログラムが有用であることがわかった。

医療者育成講演会については、本学で診療スタッフを務める心理師の武村尊生先生に痛みの診療と心理的な介入についての講演を2回に分けて開催した。

2) 慢性疼痛医療者研修会

第1回 2023年2月23日

- | | | |
|--------------------|--------|-------|
| 1: 痛みの多元性とその基礎を知ろう | 獨協医科大学 | 白川 賢宗 |
| 2: 慢性疼痛の多面的評価を知ろう | 東北福祉大学 | 武村 尊生 |
| 3: 質疑応答・討論 | | |
| 4: 薬物療法を知ろう | 獨協医科大学 | 藤井 宏一 |
| 5: 心理療法を知ろう | 上智大学 | 増田 紗弓 |
| 6: 運動療法を知ろう | 星総合病院 | 二瓶 健司 |
| 7: 質疑応答・討論 | | |
| 8: 症例ワークショップ | 獨協医科大学 | 木村 嘉之 |

参加者: 35名

医師24名, 看護師3名, 心理師5名, 薬剤師2名, 教員1名

第2回 2023年2月26日

- | | | |
|--------------------|--------|-------|
| 1: 痛みの多元性とその基礎を知ろう | 獨協医科大学 | 白川 賢宗 |
| 2: 慢性疼痛の多面的評価を知ろう | 新潟大学 | 清水 大喜 |
| 3: 質疑応答・討論 | | |
| 4: 薬物療法を知ろう | 獨協医科大学 | 藤井 宏一 |
| 5: 心理療法を知ろう | 上智大学 | 増田 紗弓 |
| 6: 運動療法を知ろう | 星総合病院 | 二瓶 健司 |
| 7: 質疑応答・討論 | | |
| 8: 症例ワークショップ | 獨協医科大学 | 木村 嘉之 |

参加者: 30名

医師17名, 看護師7名, 心理師3名, 薬剤師1名, 理学療法士1名, 作業療法士1名

3) 人材養成研修講演会

東北福祉大学 総合福祉学部 福祉心理学科 准教授 武村尊生 先生

第1回 2023年2月23日

痛み診療における精神・心理的介入
其の1: 集学的痛み診療にどう役立てるか
参加者: 50名

第2回 2023年2月27日

痛み診療における精神・心理的介入
其の2: 日常診療へのプラスワンポイントアドバイス
参加者: 51名

厚生労働省 令和4年度 慢性疼痛診療
システム普及・人材養成モデル事業
獨協医科大学病院

第1回 慢性疼痛診療web講演会
2023年02月23日(木)午後1時～

【話題】
痛み診療における精神・心理的介入
其の1: 集学的痛み診療にどう役立てるか



【演者】
武村 尊生 先生
東北福祉大学 総合福祉学部
福祉心理学科 准教授
獨協医科大学 医学部麻酔科学講座 非常勤講師
(臨床心理士・公認心理士)

リモート講演会詳細 (Zoom)

日時: 2023年02月23日 13:00～
ミーティング ID: 898 6264 3901
パスコード: 559127
招待リンク: <https://us06web.zoom.us/j/89862643901>
講演会問い合わせ先: 山口重樹 (獨協医科大学)
shigeki@dokkyomed.ac.jp

厚生労働省 令和4年度 慢性疼痛診療
システム普及・人材養成モデル事業
獨協医科大学病院

第2回 慢性疼痛診療web講演会
2023年02月27日(木)午後8時～

【話題】
痛み診療における精神・心理的介入
其の2: 日常診療へのプラスワンポイント
アドバイス



【演者】
武村 尊生 先生
東北福祉大学 総合福祉学部
福祉心理学科 准教授
獨協医科大学 医学部麻酔科学講座 非常勤講師
(臨床心理士・公認心理士)

リモート講演会詳細 (Zoom)

日時: 2023年02月27日 20:00～
ミーティング ID: 859 7261 1717
パスコード: 408159
招待リンク: <https://us06web.zoom.us/j/85972611717>
講演会問い合わせ先: 山口重樹 (獨協医科大学)
shigeki@dokkyomed.ac.jp

新潟大学医歯学総合病院

新潟大学医歯学総合病院 リハビリテーション科

木村 慎二

(新潟県慢性疼痛診療モデル事業ワーキンググループ長)

長岡中央総合病院 リハビリテーション科

田村 友典

(痛み診療コーディネーター)

1) 成果概要

本事業では、新潟大学医歯学総合病院リハビリテーション科と麻酔科・ペインクリニック、歯科麻酔科を中心に複数の連携機関と協同して、新潟県の慢性疼痛診療ネットワークの構築と教育の均てん化を推進してきた。新潟県全域から、医師15名、歯科医師1名、看護師1名、理学療法士6名、臨床心理士1名の計24名(昨年度24名)からなるワーキンググループを構成した(表1)。

活動内容として、キックオフミーティング、慢性疼痛診療研修会、慢性疼痛人材育成研修会、心理療法講演会を行った。COVID-19の事情を鑑み、すべてオンラインでの開催となった。講義やグループワークを通じて、集学的な慢性疼痛診療の実際について、多職種連携および教育を行った。

表1 新潟地区慢性疼痛診療ワーキンググループメンバー

| 氏名 | 所属 | 役割 |
|--------|---|-------------------|
| 井関 雅子 | 順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座 順天堂大学大学院 医学研究科疼痛制御学 | 関東甲信越地区 代表 |
| 木村 慎二 | 新潟大学医歯学総合病院 リハビリテーション科 | WG長 |
| 内山 徹 | 内山整形外科医院 | 副WG長 |
| 渡邊 慶 | 新潟大学医歯学総合病院 整形外科 | 委員 |
| 福井 直樹 | 新潟大学医歯学総合病院 精神科 | 委員 |
| 傳田 定平 | 新潟市民病院 ペインクリニック科 | 委員 |
| 森田 修 | 長岡赤十字病院 整形外科 | 委員 |
| 保坂 登 | 県立中央病院 整形外科 | 委員 |
| 高橋 美德 | びとく整形外科クリニック | 委員 |
| 庄司 寛和 | 新潟市民病院 整形外科 | 委員 |
| 八幡 美緒 | 厚生連長岡中央総合病院 整形外科 | 委員 |
| 田中 裕 | 新潟大学医歯学総合病院 歯科麻酔科 | 委員 |
| 松井 宏 | 新潟労災病院 歯科口腔外科 | 委員 |
| 神田 賢 | 新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法科 | 委員 |
| 岩崎 円 | 新潟大学医歯学総合病院 診療支援部 リハビリテーション部門 | 委員 |
| 長谷川 郁 | 新潟大学医歯学総合病院 看護部 | 委員 |
| 筒井 奈佳子 | 新潟リハビリテーション病院 臨床心理室 | 委員 |
| 北村 拓也 | 新潟リハビリテーション大学 医療学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻 | 委員 |
| 浦川 貴朗 | 厚生連長岡中央総合病院 整形外科 | 委員 |
| 富田 美佐緒 | 新潟県立がんセンター新潟病院 麻酔科 | 委員 |
| 傳田 博司 | 新潟労災病院 整形外科 | 委員 |
| 大川 豊 | 整形外科・眼科 大川クリニック | 委員 |
| 渡部 達範 | 魚沼基幹病院 麻酔科 | いたみ診療 コーディネーター |
| 大鶴 直史 | 新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 | いたみ診療 コーディネーター |
| 田村 友典 | 厚生連長岡中央総合病院 リハビリテーション科 | いたみ診療 コーディネーター |

2) 事業実施成果

○ 新潟地区ワーキンググループキックオフミーティング (図1)

- ・日時：2022年 5月 26日 (木)
- ・開催方法：Web (Zoom)
- ・参加人数：20人
- ・内容：

本事業の概要説明、4名の新就任委員の紹介、年間活動スケジュール、慢性疼痛診療研修会等の開催内容について話し合いが行われた。

図1 キックオフミーティング時のワーキンググループの写真



○ 日本痛み財団と共催で行った新潟県慢性疼痛診療研修会

痛みの多元性や多面的評価、さらには各種慢性疼痛の病態についての講義に加え、症例を通してグループワークを行った。各グループにファシリテーターが配置され、慢性疼痛診療における集学的な評価や治療等について、理解が深められた。

① 第1回新潟県慢性疼痛診療研修会 (図2)

- ・日時：2022年 7月 31日 (日)
- ・開催方法：Web (Zoom)
- ・参加医療機関：13施設
- ・参加人数：15名 (医師7名、理学療法士5名、作業療法士3名)

図2 第1回新潟県慢性疼痛診療研修会の全員写真



第1回 新潟県慢性疼痛診療研修会
厚生労働省 令和4年度 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

2022年 **7月31日(日)** 9:30-13:00

新型コロナウイルス感染予防のため、Zoomによる研修会となります。慢性疼痛に関する最新知見をぜひこの機会に一緒に学びましょう。
対象：医師、歯科医師、看護師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、ソーシャルワーカー、薬剤師

参加費無料
募集人数:40名

開会の挨拶、概要説明 (9:30-9:40) 木村 慎二 先生 (新潟大学医歯学総合病院)

- 痛みの多源性を知ろう (9:40-10:00)
講師：川村 元哉 先生 (新潟県機軸 新潟こどもと女の健康センター)
- 痛みの多面的評価 (ICD-11を含む)を知ろう (10:00-10:20)
講師：大鏡 直史 先生 (新潟医療福祉大学)
講師：内山 徹 先生 (内山整形外科医院)
- 各種慢性疼痛疾患の病態 (10:20-10:40)
講師：庄司 寛和 先生 (新潟市医師会)
- アイスブレイキング・症例を体験しよう(前半、評価) (10:40-11:00)
講師：木村 慎二 先生 (新潟大学医歯学総合病院)
休憩 (11:00-11:10)
- 痛みの治療を知ろう
・薬物療法・インターベンション治療を知ろう (11:10-11:25)
講師：近藤 達雄 先生 (新潟県精神科)
・運動療法を知ろう (11:25-11:40) 講師：神田 眞 先生 (新潟医療福祉大学)
・心理療法を知ろう (11:40-12:00) 講師：村上安香子 先生 (新潟大学)
・手術療法を知ろう (12:00-12:15) 講師：森田 修 先生 (長岡日赤病院)
- 症例を体験しよう(後半、治療) (12:15-12:45)
講師：木村 慎二 先生 (新潟大学医歯学総合病院)

閉会の挨拶 内山 徹 先生 (内山整形外科医院)

お申込み 新潟大学医歯学総合病院リハビリテーション科 参加申込は
お問い合わせ 〒951-8520 新潟市中央区南万葉1-7-75 4階
E-mail: rha@med.niigata-u.ac.jp 参加申込は
E-mail: rha@med.niigata-u.ac.jp 参加申込は

② 第2回新潟県慢性疼痛診療研修会 (図3)

- ・日時:2023年1月29日(日)
- ・開催方法:Web(Zoom)
- ・参加医療機関:14施設
- ・参加人数:17名(医師4名、看護師3名、理学療法士6名、作業療法士4名)

図3 第2回新潟県慢性疼痛診療研修会の全員写真



第2回 新潟県慢性疼痛診療研修会
厚生労働省 令和4年度 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

2023年 **1月29日(日)** 9:30-13:00

新型コロナウイルス感染予防のため、Zoomによる研修会となります。慢性疼痛に関する最新知見をぜひこの機会に一緒に学びましょう。
対象：医師、歯科医師、看護師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、ソーシャルワーカー、薬剤師

参加費無料
募集人数:40名

司会:田村 友典 先生 (厚生連長岡中央総合病院)

開会の挨拶、概要説明 (9:30-9:40) 木村 慎二 先生 (新潟大学医歯学総合病院)

- 痛みの多源性を知ろう (9:40-10:00)
講師：斎藤 運範 先生 (魚沼総合病院)
- 痛みの多面的評価 (ICD-11を含む)を知ろう (10:00-10:20)
講師：北村 拓也 先生 (新潟リハビリテーション大学)
講師：内山 徹 先生 (内山整形外科医院)
- 各種慢性疼痛疾患の病態 (10:20-10:40)
講師：浦川 貴朗 先生 (厚生連長岡中央総合病院)
- アイスブレイキング・症例を体験しよう(前半、評価) (10:40-11:00)
講師：木村 慎二 先生 (新潟大学医歯学総合病院)
休憩 (11:00-11:10)
- 痛みの治療を知ろう
・薬物療法・インターベンション治療を知ろう (11:10-11:25)
講師：斎藤 運範 先生 (新潟県立がんセンター新潟病院)
・運動療法を知ろう (11:25-11:40) 講師：岩崎 尚 先生 (新潟大学医歯学総合病院)
・心理療法を知ろう (11:40-12:00) 講師：大江 悠樹 先生 (香林大学)
・手術療法を知ろう (12:00-12:15) 講師：俣田 博司 先生 (新潟労災病院)
- 症例を体験しよう(後半、治療) (12:15-12:45)
講師：木村 慎二 先生 (新潟大学医歯学総合病院)

閉会の挨拶 内山 徹 先生 (内山整形外科医院)

お申込み 新潟大学医歯学総合病院リハビリテーション科 参加申込は
お問い合わせ 〒951-8520 新潟市中央区南万葉1-7-75 4階
E-mail: rha@med.niigata-u.ac.jp 参加申込は
E-mail: rha@med.niigata-u.ac.jp 参加申込は

○ 人材育成研修会 (図4)

- ・日時:2022年10月2日(日)
- ・開催方法:Web(Zoom)
- ・参加人数:48名(医師3名、歯科医師33名、看護師1名、歯科衛生士8名、その他3名)
- ・内容:

歯科口腔領域の慢性疼痛特有の問題点や多職種連携の重要性について焦点が当てられ、その病態および診療内容等をお示しできたことで、さらなる医療連携および診療の充実をすすめることができると考えられる。

図4 人材育成研修会の講師・座長・コメンテーター集合写真



厚生労働省 令和4年度 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業
新潟県慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

歯科口腔領域の慢性疼痛に関する 人材育成研修会

2022年 **10月2日(日)** 10:00-11:45

参加費 無料 対象:医師、歯科医師、歯科衛生士、看護師、理学療法士、作業療法士、公認心理師、ソーシャルワーカー、薬剤師
新型コロナウイルス感染予防のため、Zoomによる研修会となります
慢性疼痛に関する最新知見をぜひこの機会に一緒に学びましょう

司会:田中 裕先生(新潟大学医歯学総合病院 歯科麻酔科 病院准教授)
開会の挨拶 (10:00-10:05)
木村 慎二先生(新潟大学医歯学総合病院 リハビリテーション科 病院教授)

1. 症例提示 1 (10:05-10:25)
「三叉神経痛の診断に迷う高齢女性の1例」
演者:松井 宏先生(新潟労災病院 歯科口腔外科)
コメンテーター:坂本 英治先生(九州大学病院 口腔顔面痛外来顎顔面口腔外科 講師)
瀬尾 善司先生(新潟大学大学院医歯学総合研究科 歯科麻酔学分野 教授)

2. 症例提示 2 (10:25-10:45)
「咬筋・側頭筋筋膜炎性疼痛の1症例」
演者:瀬下 博樹先生(新潟県新潟市)
コメンテーター:坂本 英治先生(九州大学病院 口腔顔面痛外来顎顔面口腔外科 講師)
内山 徹先生(内山整形外科医院 院長)

3. 基調講演 (10:45-11:45)
「口腔顔面痛の現状と未来」
座長:瀬尾 善司先生(新潟大学大学院医歯学総合研究科 歯科麻酔学分野 教授)
講師:坂本 英治先生(九州大学病院 口腔顔面痛外来顎顔面口腔外科 講師)

口腔顔面痛には国民の少なからずが悩んでいる。しかし現状では適切な対応は限られている。口腔顔面痛には歯科治療などの介入はほとんど効果がないため、患者は歯科を転々とするほか関連する医療機関にも訪れる。しかし、歯の痛みは歯科の先生に聞いて下さいとなることも多い。口腔顔面痛は歯科と内科のピットフォールと見える。口腔顔面痛の多くは、生活に支障を来すような運動障害がなく、摂食を妨げるような機能障害も少ない。何が困っているかという問いに対して、患者は思いからという答えが多くなって来る。痛めてできないやむを得ないことを悪いながらも取り組もうという方針が通用しないことも多い。その対応には頭を悩ませる。しかしこの口腔顔面痛の病態こそ慢性疼痛特有の解決すべき問題点が含まれているのではないかと考える。
本講演では口腔顔面痛における慢性疼痛としての普遍性、特殊性を考察し、多職種連携の可能性について考えてみたい。

閉会の挨拶 内山 徹先生(内山整形外科医院 院長)

総申込みお問い合わせ
新潟大学医歯学総合病院リハビリテーション科 〒951-8520 参加申込はコチラ
E-mail: nic@dent.niigata-u.ac.jp 新潟市中央区旭町通1丁目764番地
事務担当:佐藤、山本 TEL:025-227-0369 FAX:025-227-2743

○ 慢性疼痛患者の心理社会的評価と心理療法講演会 (図5)

- ・日時:2022年12月8日(木)
- ・開催方法:Web(Zoom)
- ・参加人数:17名(医師10名、理学療法士2名、作業療法士1名、その他4名)
- ・内容:

慢性疼痛患者における心理的状态、社会的状況、認知・行動特性などの問題に対して、心理社会的評価や心理療法を含めた包括的なアプローチについて、理解を深めることができた。

図5 心理療法講演会の講師・座長・コメンテーター集合写真



厚生労働省 令和4年度 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業
新潟県慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

慢性疼痛患者の心理社会的評価と心理療法講演会

2022年 **12月8日(木)** 18:00-19:45

対象:医師、歯科医師、歯科衛生士、看護師、理学療法士、作業療法士、公認心理師、ソーシャルワーカー、薬剤師
慢性疼痛に関する最新知見をぜひこの機会に一緒に学びましょう

無料 参加用サイトURL <https://zoom.us/j/6801584523>

司会:渡部 達範先生(魚沼基幹病院 麻酔科 部長)

開会の挨拶 (18:00-18:05)
木村 慎二先生(新潟大学医歯学総合病院 リハビリテーション科 病院教授)

1. 症例提示 1 (18:05-18:25)
「心理的問題を抱えた右下肢CRPSの一例」
演者:北村 拓也先生(新潟リハビリテーション大学医療学部 リハビリテーション学科 講師)
コメンテーター:安野 広三先生(九州大学病院 心療内科 助教)
富田 美佐緒先生(新潟県立がんセンター新潟病院 麻酔科 臨床部長)

2. 症例提示 2 (18:25-18:45)
「家庭内での問題を抱えた慢性腰痛の一例」
演者:渡部 達範先生(魚沼基幹病院 麻酔科 部長)
コメンテーター:安野 広三先生(九州大学病院 心療内科 助教)
筒井 奈佳子先生(新潟リハビリテーション病院 臨床心理室 臨床心理士)

3. 基調講演 (18:45-19:45)
「慢性疼痛患者の心理社会的評価と心理療法」
座長:傅田 定平先生(新潟市民病院 ベイクリニック外科 部長)
講師:安野 広三先生(九州大学病院 心療内科 助教)

慢性疼痛患者の心理社会的要因の評価は、①痛みからくる抑うつ・不安などの心理的状态、生活機能障害、社会的状況の変化、②痛みに対する認知・行動特性、③背景にある元素の患者の性格特性、置かれている社会的状況、に大きく分けられる。一般的に慢性疼痛の心理療法は主に②に焦点をあてられるが、難治の経過をたどる症例は③の評価・対応が重要になることが多い。今回、慢性疼痛の心理社会的評価・治療につき①②③を含め包括的に概説したい。

閉会の挨拶
渡部 達範先生(魚沼基幹病院 麻酔科 部長)

お問い合わせ
新潟大学医歯学総合病院リハビリテーション科 〒951-8520
E-mail: rehab@nigata-u.ac.jp 新潟市中央区旭町1丁目754番地
TEL: 025-227-0369
事務担当:佐藤、山本

3) その他

COVID-19の感染予防のため、今年度も対面研修の開催は行わず、昨年度と同様に新潟大学医歯学総合病院リハビリテーション科を拠点にオンライン方式で開催した。研修会の開催にあたり、ワーキンググループで事前の打ち合わせを行い、特に大きなトラブル等なく研修会を行なうことができた。この経験を活かし、慢性疼痛診療の啓発および診療の質の向上を図るとともに、さらなる関東甲信越地方の慢性疼痛診療ネットワークの強化に努めていきたい。

活動報告

横浜市立大学附属市民総合医療センター ペインクリニック内科の取り組み

事務局スタッフ

| | | |
|--------------|--------|---------------------------------------|
| 事業責任者 | 北原 雅樹 | 横浜市立大学附属市民総合医療センター ペインクリニック内科 診療教授 |
| 事務局・コーディネーター | 浅枝 まり子 | 事務局長 公認心理師 |
| | 星野 諒太 | 公認心理師 |
| | 大河原 貴子 | 事務スタッフ |

医療スタッフ

- 北原 雅樹 : 医師(ペインクリニック専門医、麻酔科専門医)、公認心理師
診療部長
- 小島 圭子 : 医師(ペインクリニック専門医、麻酔科専門医)、公認心理師
緩和ケア部診療部長
- 西岡 浩子 : 医師(麻酔科専門医)
- 阿部 美蓉 : 医師(麻酔科専門医)
- 富永 陽介 : 医師(精神科医 麻酔科医)
- 高野 恵子 : 看護師
- 赤澤 めぐみ : 看護師
- 伯母 治 : 作業療法士
- 守屋 正道 : 理学療法士
- 五十嵐 香 : 公認心理師
- 浅枝 まり子 : 公認心理師
- 野口 直子 : 鍼灸師

(2023年3月6日現在)

2022年度の事業報告

2022年度の横浜市立大学附属市民総合医療センター パインクリニック内科では、2021年度まで継続して注力してきた地域の診療ネットワーク構築および慢性痛に関する知識の普及啓発活動に加えて、本年度から新たに受託したHPVワクチン拠点病院整備事業との関連も含め、慢性痛患者に比較的多くみられる発達障害の特性を持った患者に対する対応などに注目した医療者講習会をHPVワクチン拠点病院整備事業とダブルタイトルで行うなど、昨年までと比べて個別の患者への対応にも踏み込んだ内容で行った。その活動を以下にまとめる。

1. 横浜市立大学附属市民総合医療センター独自の普及啓発活動
(WEB開催の講演会、セミナーなど)
2. 厚生労働省受託事業資金による厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 (関東甲信越地区/横浜市立大学) 慢性疼痛診療研修会
3. YouTube チャンネル「北原先生の痛み塾」での医療者及び患者への啓発活動
4. 短期の研修生受け入れ、および医療職のカンファレンスなどの見学交流事業

■ 心と痛みのバイサイドセミナー 2022年12月15日

このセミナーは2017年以来毎年開催して6年目になる、慢性痛に対する心理社会的視点についてのセミナーである。今年は慢性痛の患者に多く見られる発達障害の特性について、特にASD傾向の患者についての内容を取り扱った。演者には発達障害の成人のSST(ソーシャルスキル・トレーニング)プログラムを開発した昭和大学烏山病院の高名な臨床心理士を招いて、特に興味深い内容となり、患者の心理社会的背景について学びの多い内容となった。

演者：横井 英樹 昭和大学発達障害医療研究所/昭和大学烏山病院
臨床心理士/公認心理師/訪問型職場適応援助者

『発達障害を持つ方の理解の仕方や彼らが持つ独特な感覚について』

パネリスト：北原 雅樹 横浜市立大学附属市民総合医療センター

司会：浅枝 まり子 横浜市立大学附属市民総合医療センター

■ 慢性痛モデル事業 医療者講習会 (HPVワクチン拠点病院整備事業 共催) 2023年1月14日

HPVワクチン拠点病院整備事業とダブルタイトルで行われた講習会である。講師には元大阪大学疼痛医学寄付講座教授で、HPVワクチン副反応患者を100名以上診療した経験のある柴田教授を招聘した。実際の診療の中で、慢性痛を訴えた患者たちの心理社会的背景について示唆に富んだ内容で行われた。

座長：北原 雅樹 横浜市立大学附属市民総合医療センター ペインクリニック内科

司会：浅枝 まり子 横浜市立大学附属市民総合医療センター ペインクリニック内科

演者：宮城 悦子 横浜市立大学附属病院 産婦人科 教授

演者：柴田 政彦 奈良学園大学 保険医学部 リハビリテーション学科 教授

内容：ワクチン接種後の痛みへの対応 医療者としてわきまえておくべきこと

2. 厚生労働省 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業慢性疼痛診療研修会

2023年2月12日に一般社団法人痛み財団のプログラムによる厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業を開催した。参加者に医師が多かった為、踏み込んだ内容となった。

表1 研修会時程

| 時刻 | スタイル | 内容 |
|-------------|------|---------------------------|
| 9:45:~10:00 | 全体 | 参加者がZoomにインし、通信状態の確認等を行う。 |
| 10:00~10:10 | 全体 | 講師（北原）挨拶。操作説明（内藤） |
| 10:10~10:20 | グループ | アイスブレイク |
| 10:20~10:30 | 全体 | オンデマンド講義に対する質疑応答 |
| 10:30~10:40 | 全体 | 症例提示 |
| 10:40~10:50 | グループ | ディスカッション1タイム |
| 10:50~11:00 | 全体 | ディスカッション1の総合討論 |
| 11:00~11:05 | 全体 | 追加提示 |
| 11:05~11:15 | グループ | ディスカッション2タイム |
| 11:15~11:25 | | 休憩 |
| 11:25~11:35 | 全体 | ディスカッション2の総合討論 |
| 11:35~11:40 | 全体 | 問題点の提示 |
| 11:40~11:45 | グループ | ディスカッション3タイム |
| 11:45~11:50 | 全体 | ディスカッション3の総合討論 |
| 11:50~11:55 | 全体 | 治療方針案の提示 |
| 11:55~12:00 | 全体 | 全体討論、まとめ |

参加者をファシリテーターを含めて4~5名のグループに分けてディスカッションを深めたが、こういった講習会では参加者の多様性によって秀逸な見解が出る事がある。今年も歯科医師の参加したグループから、訪問歯科医による治療計画や横浜歯科医師会のプログラムが紹介され、医師だけでは考え付かなかったアプローチがあり実りの多い講習会となった。

症例提示：78 歳女性

現病歴：

それまでは日常生活に全く不自由はなかった。家事はすべて自分でやっており、片道約1kmのスーパーまで2日に1回は買い物に行っていた。老人会の華道教室の講師として週1回は教えていた。26か月前：急に腰部に激痛。L3圧迫骨折のDx、安静を中心に1か月入院。激痛は治まったが、退院後、家事をようやくこなす程度。買い物には行けなくなり、食事の材料などは娘が買ってくる。複数の医療機関での各種神経ブロックは効果が無かった。手術適応はないといわれた。

嗜好品：喫煙歴なし。酒は50代までは週2回位。

家族構成：

エレベータ付きマンションの5階の部屋で独居(4年前に5歳年上の配偶者と死別)。子供は長男と長女。長女(50歳)夫婦が自転車で10分のところに居住。長男(48歳)は遠方に居住。年金+貯金などで、贅沢はできないが当面のお金には困らない。

既往歴：高血圧

常用薬：

血圧に対して：ARB・利尿薬配合剤

睡眠導入剤：プロマゼパム 2mg+エチゾラム 0.5mg(週 1~2 回)

鎮痛薬：ロキソプロフェン 3T/3x, レバミピド 3T/3x, ترامドール/アセトアミノフェン配合剤 3T/3x, プレガバリン 75mg 4T/2x

現 症：

151cm、BW 50.5⇒44.5(最近6か月間で)

腰背部全体~両臀部にかけて強い痛みがある。足腰に力が入りにくく、ふらつくことが多くなった。

痛みではなく何となく寝つきが悪いが睡眠薬で眠れる。週に2~3回夜トイレなどで目が覚めると痛い。

神経学的所見：

DTR knee 2+/2+, ankle 1+/1+. Babinski -/-。下肢筋力低下 (MMT Quad 3+/3+, TA 4/4, EHL 4/4, Hum 3+/3+, Glu 4/4) 異常反射はない。両ひざ下にストッキング型に末梢に行くほど強い感覚低下あり。ROM 股関節の外旋外転が両側性に軽度制限。

検査所見：

WBC 6,700/ μ l, RBC 320 万/ μ l, Hb 11.1g/dl, Plt 18.6 万/ μ l, TP 6.2g/dl, Alb 3.5g/dl, CPK 92U/L, GOT 36U/L, GPT 48U/L, γ GTP 76U/L, ALP 238U/L, Cre 1.1 mg/dl, eGFR 37.2 mL/min/1.73m², UA 3.9mg/dl, TG 120 mg/dl, Tcho 220mg/dl, Na148meq/L, K 4.1meq/L, Cl 110 meq/L, Ca 8.3mg/dl, CRP 0.46mg/d

表1 申し込み者の性別と年齢

| 性別 | 人数 | 平均 | SD |
|----|----|-------|-------|
| 全体 | 30 | 50.90 | 12.19 |
| 男性 | 21 | 54.14 | 10.96 |
| 女性 | 9 | 42.38 | 16.95 |

表2 年齢四分位

| 年齢四分位 | 値 |
|--------|----|
| 最小値 | 27 |
| 四分位25% | 41 |
| 中央値 | 51 |
| 四分位75% | 61 |
| 最大値 | 74 |

表3 申し込み者の職業

| 職業 | 人数 | 割合 |
|-------------|----|--------|
| 医師 | 19 | 63.33% |
| 看護師 | 2 | 6.67% |
| 鍼灸師 | 2 | 6.67% |
| 歯科医師 | 1 | 3.33% |
| 薬剤師 | 1 | 3.33% |
| 理学療法士 | 1 | 3.33% |
| 心理士 | 1 | 3.33% |
| あん摩マッサージ指圧師 | 1 | 3.33% |
| その他 | 2 | 6.67% |

表4 申し込み者の居住地

| 居住地 | 人数 | 割合 |
|------|----|--------|
| 神奈川県 | 15 | 50.00% |
| 東京都 | 6 | 20.00% |
| 千葉県 | 3 | 10.00% |
| 北海道 | 1 | 3.33% |
| 群馬県 | 1 | 3.33% |
| 新潟県 | 1 | 3.33% |
| 岐阜県 | 1 | 3.33% |
| 大阪府 | 1 | 3.33% |

事前アンケート

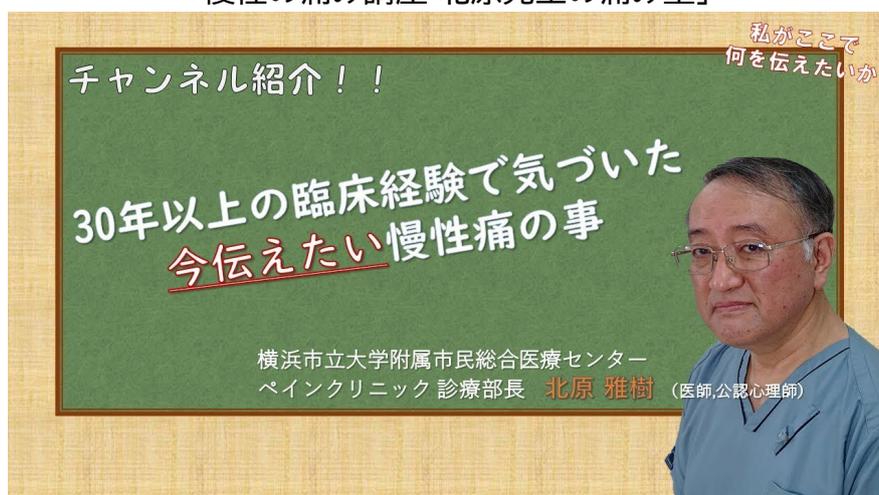
事前に慢性痛の診療やケアに関して参加者がどのように感じているかのアンケートを行った。その結果、「慢性痛の評価や治療について必要なトレーニングを受けていない」、「慢性痛の評価に関する知識が不足している」、「慢性痛を緩和する方法の知識が不足している」、「明らかな疾病利得がある慢性痛患者の対応が難しい」の項目を肯定した割合が9割を超えた。このことから、参加希望者の多くは、慢性痛の診療に関する体系的な知識や対応方法の面に困難を抱えている傾向がみられる。

また、「慢性痛患者に関わる、自分以外の職種の動き方が実感をもってわかる」、「慢性痛患者に関わることについて、気軽に相談できる人が地域にいる」、「各施設が提供する慢性痛の治療内容が分かる」、「地域で慢性痛患者に関わっている人の名前と顔、考え方がわかる」、「慢性痛に関する地域連携に関わる課題や困っていることを共有し、話し合う機会がある」、「地域で慢性痛患者に関わっている施設の理念や事情が分かる」の項目を否定した割合が9割を超えた。このことから、参加希望者の多くは、多職種連携や地域連携などにも困難を抱えている傾向がみられる。

3. YouTubeチャンネル「北原先生の痛み塾」での医療者及び患者への啓発活動

2020年7月に開設したYouTubeチャンネル「北原先生の痛み塾」今年3年目を迎え、ますます登録人数も増えて、2週間に一回の公開では毎回のようにコメントが寄せられる。横浜市立大学附属市民総合医療センター ペインクリニック内科 の名物チャンネルとなっている。このチャンネルは地域医療者に向けて専門的な知識を普及啓発するだけでなく、患者教育にも重要な役割を果たしている。患者に向けて、次回診療前にこのチャンネルで勉強してくるよう伝え、その視聴そのものがCBTの役割を果たすようになってきている。モデル事業資金の使途としては非常に効果的であった。

「慢性の痛み講座 北原先生の痛み塾」



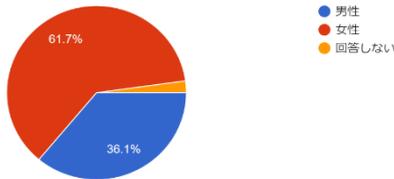
<https://www.youtube.com/channel/UCmpwIqPLM3h3XUPEDT7owrQ>

2023年3月6日現在、登録者数6,540人、総視聴回数478,150回で、慢性痛の啓発チャンネルとしてはトップレベルである。

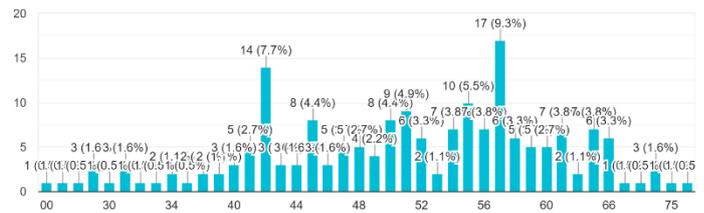
活動報告 | 横浜市立大学附属市民総合医療センター

医療者向けの専門的な知識を含んだ内容であり、レベルは高いが、視聴者には患者が相当数含まれている。患者自身が知識をつけてドクターショッピングを重ねる事を防ぐ事、慢性痛を自分自身で克服していく事が治療において重要だが、そのための一助となっていることは確実である。

性別
183件の回答

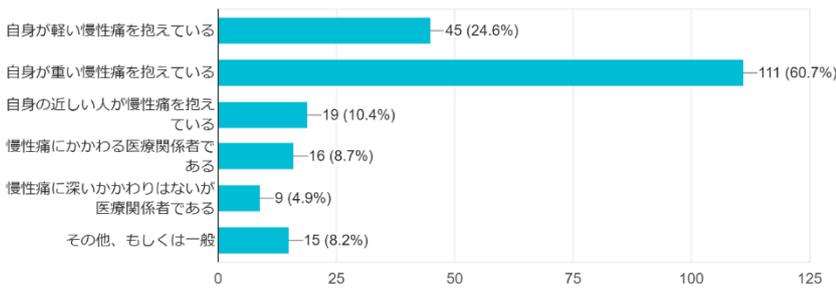


年齢
183件の回答



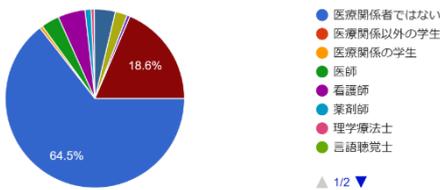
以下のうち最も当てはまるのはどれですか【複数回答可】

183件の回答



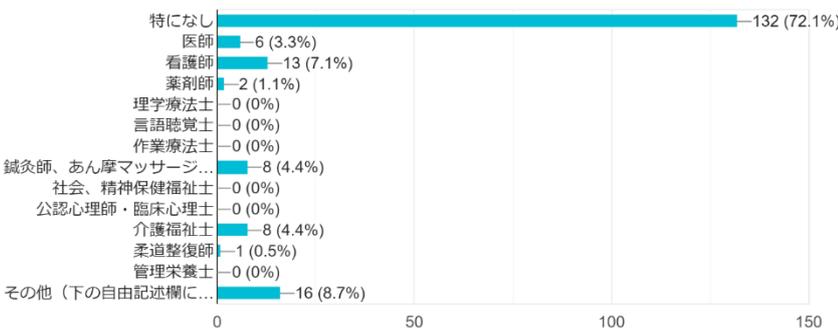
ご職業

183件の回答



所持されている資格

183件の回答



4. 医療職のカンファレンス見学などの地域医療者交流事業

当院では、事前申し込みによる医療職の見学を受け入れている。見学対象は毎週金曜日13:00~14:30に行われる精神・心理・重症カンファレンスで、心理社会的因子の強い治療抵抗性の患者の症例について、各医療専門職(麻酔科医、精神科医、看護師、公認心理師、理学療法士、作業療法士、鍼灸師)がそれぞれの専門の立場から議論するのを実際に見学できるため、見学者の集学的痛み診療への理解が大きく進み、満足度も非常に高い。

さらに、見学している医療職の意見も求めるため、地域福祉に関わる保健師などの助言は患者の社会的環境の調整などのヒントになることも多く、当科にとっても大きな恩恵のある制度である。今年度も新型コロナウイルスの影響にも関わらず沢山の見学者が訪れた。

【見学者の内訳】

麻酔科医 2名 内科医 1名 理学療法士 3名 鍼灸師 3名

横浜市南区在宅医療相談室 相談員 保健師1名

医学部学生 1名

口腔外科医 2名

公認心理師 2名

5. 終わりに:今年度の事業を振り返って

厚生労働省慢性痛人材養成のためのモデル事業も今年で6年目となった。

今年の事業で新たな試みは、HPVワクチン拠点病院整備事業とダブルタイトルで行ったことである。普段の慢性痛モデル事業の参加者は整形外科、麻酔科の医師及び歯科医、そして鍼灸師や接骨院院長などが多く、今回は参加者に産婦人科医や小児科、一般内科医が新たに加わり、参加者アンケートも「慢性の痛みについて初めて深く学んだ」というような内容も散見され、HPVワクチンの普及啓発にも一役買うなど、二つのモデル事業が相互作用でよい働きをしていたように思われる。また、今年度一番評判が良かった発達障害の特性についての講習会には心理師の参加も多く、慢性の痛みを診られる医療職の裾野が広がったと言えよう。

また、行政や学校関係者の参加も多かったことは大きな収穫である。保健体育の教師や保健室の教諭などの思春期の子供たちの痛みなどに知見が深まれば、潜在的な成人の患者への慢性痛教育につながる。たまたま二つの事業をダブルタイトルで行った試みであったが、得たものは大きかった。

この事業を支え続けてきてくれた厚生労働省の担当者に感謝するとともに、参加していただいた地域医療者、そして活動を支えてくださった協力機関や当科スタッフに心からお礼を申し上げます。

東京慈恵会医科大学附属病院

代表者：倉田 二郎 東京慈恵会医科大学麻醉科学講座

東京慈恵会医科大学附属病院ペインクリニック（痛みセンター）

院内協力者

| | |
|--------|------------|
| 倉田 二郎 | 医師 |
| 八反丸 善康 | 医師 |
| 濱口 孝幸 | 医師 |
| 大岩 彩乃 | 医師（非常勤） |
| 荻野 有希 | 理学療法士（非常勤） |
| 筒居 直美 | 理学療法士（非常勤） |
| 大久保 泉美 | 理学療法士（非常勤） |
| 平子 雪乃 | 臨床心理士（非常勤） |
| 増田 紗弓 | 臨床心理士（非常勤） |

1. 本施設におけるモデル事業の概要

当院では、理学療法士と臨床心理士が慢性痛患者の診察、治療に関わり、特にペインクリニックを重点的に担当する看護師とともに、多職種での慢性痛診療体制を築いてきました。複数の心理物理指標を初診時から3か月毎に記録し、感覚的な痛みだけでなく、患者の情動・認知の働きや、身体全体の運動週間、生活習慣などに留意しながら、全人的な痛み治療を目標としてきました。令和2年10月1日から「集学的痛みセンター」として認定され、本モデル事業でも年に1-2回の慢性疼痛研修会、講演会を開催してきました。

開業医を含む幾つかの関連施設と連携し、相互に患者を紹介しながら、港区を中心とする地域の慢性痛診療を徐々に充実させています。

2. モデル事業内容の実際

本年度は、令和5年3月18日に下記のようなプログラムで慢性疼痛研修会を開催しました。当院の学際的スタッフ陣に加え、慶應義塾大学 麻酔科 小杉 志都子 准教授、山口大学 整形外科 鈴木 秀典 准教授、愛知医科大学 中楚友一朗 先生にもご指導頂き、充実した内容を組み上げることができました。ウェブのみの開催ですが、多数の参加者にご応募頂きました。痛み財団の皆様にもこの場を借りて感謝申し上げます。

慢性疼痛医療者研修会

2023年 3月 18日

1. 痛みの多元性を知ろう

講師 | 小杉 志都子

2. ICD-11を知ろう

講師 | 鈴木 秀典

3. 痛みの多面的評価

講師 | 大岩 彩乃

4. 運動療法

講師 | 中楚 友一朗

5. 心理療法

講師 | 増田 紗弓

6. 症例検討

講師 | 濱口 孝幸、八反丸 善康

質疑応答、アンケート、挨拶

倉田 二郎

令和4年度厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

慢性疼痛診療研修会

明日からの慢性疼痛診療に役立つ評価法と治療法を学び、グループディスカッションを行います。
慢性痛に興味のある方は、ぜひお気軽にご参加ください。

日時 2023年3月18日(土)
14:00～17:00(受付13:45開始)

開催形式 Zoomオンライン会議システム

参加対象 関東地区に勤務の医療従事者
慢性痛に関連する職種
医師・歯科医師・看護師・理学療法士・作業療法士・臨床心理士・公認心理師・ソーシャルワーカー・薬剤師・その他

1. 痛みの多元性を知ろう
2. ICD-11を知ろう
3. 痛みの多面的評価
4. 痛みの治療 運動療法
5. 痛みの治療 心理療法
6. 症例検討

参加費
無料定員
30名

参加をご希望の方は下記よりお申し込みください
<https://forms.gle/jbFghtPZFRcyB4bx8>

【主催】厚生労働省「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 関東甲信越ブロック 東京慈恵会医科大学医学部 麻酔科学講座

お問い合わせ先:
一般財団法人日本いたみ財団 事務局Email: itamazaidan@gmail.com

3. 今後の目標

本事業により、慢性痛診療の基礎知識と概念が浸透し、ボトムアップで日本の痛み診療全体が変貌すると期待します。今後は慢性痛診療のエビデンスを臨床・基礎研究の両面から発信していきます。慢性痛の脳科学と行動科学にご興味を持つ同志を広く求めますので、ご連絡ください。

善衆会病院

1. 善衆会病院運動器慢性疼痛センター構成

恩田 啓 (医師/整形外科・リハビリテーション) … 代表者

糸井 由紀 (看護師)

小野里 恵子 (看護師)

酒井 晃洋 (公認心理師)

岡田 牧子 (薬剤師)

小口 達也 (作業療法士)

天笠 陽介 (理学療法士)

関口 昌宏 (理学療法士)

木村 由美子 (薬剤科)

2. 善衆会病院運動器慢性疼痛センターの取り組みと医療連携

週2回午後に慢性疼痛を専門とした外来を設置している。

病院の広報誌などを通して群馬県前橋市周辺地域から主に紹介を受けている。また、当院は整形外科疾患を中心とした病院であるため、院内からの紹介患者の割合が多い。

カンファレンスは、3～4週間に1回行っている。新患患者のプレゼンテーションを行い、多職種での介入方法の検討や通院中の患者情報の共有を行っている。また、多職種治療の一環として規則正しい生活習慣獲得、運動習慣獲得の希望があれば、2週間の短期集学的入院プログラムも用意している。

3.令和4年度 厚生労働省 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

第1回慢性疼痛診療研修会 in 群馬

① 主催者として慢性疼痛診療研修会を終えて

善衆会病院運動器慢性疼痛センター 恩田啓

群馬県では初開催となった。開催に当たり、関東甲信越地区代表の井関雅子先生、日本いたみ財団の事務局に多大なるご協力を頂いた。開催はオンライン配信とした。今回開催の最大の目的は、① '慢性疼痛' は急性疼痛が単に遷延しただけでないという特徴を理解して頂くこと。② 慢性疼痛患者のQOL改善のため、多職種による集学的治療が有用であることを知って頂くことであった。内容は4つの講演と1症例のディスカッションとした(計3時間)。依頼をした講師の先生方のおかげもあり初回開催の目的は達することができたと考えている。今後、継続的に慢性疼痛に興味を持って頂けるよう研修会を通じて地域の輪を広げていきたいと考えている。今回の研修会案内状は、地域の病院(整形外科・ペインクリニック科・リハビリ科)を中心に配布したが、今後は研修会の内容によっては、関連診療科の開業医や特に臨床心理士にも参加して頂けるよう対策を講じたい。また、当面はセンター病院から地域病院へという一方向からの発信となるが、将来的には2~3施設のチーム間での症例ディスカッションが出来るような、すなわち双方向でのやり取りが可能な体制を整備したいと思っている。群馬県においては、まだ慢性疼痛診療の種をまいている状況である。

厚生労働省 令和4年度 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 (関東甲信越地区)

慢性疼痛診療研修会

*群馬県/善衆会病院 主幹

明日からの慢性疼痛診療に役立つ評価法と治療法を学び、グループディスカッションを行います。慢性疼痛に興味のある関係各位の皆様、お誘いあわせのうえ、ぜひご参加ください。

日時: 2023年 2月 19日 (日) 10:00~13:00 *入室開始 9:45
会場: オンライン開催 (ZoomミーティングによるWEBライブ配信)
対象: 痛みに関わる全ての医療従事者 *特に群馬県内の方
医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、公認心理師、ソーシャルワーカー など ※ 関東甲信越地区の施設勤務の医療従事者限定
参加費: 無 料 ※ 定員20名 先着順 ※事前申込必須

研修会プログラム

| | |
|-------------------------|-------------------------------|
| ◇ 開会挨拶 | 善衆会病院 理事長 木村 雅史 |
| 1. 慢性疼痛概論・基礎知識 | 順天堂大学麻酔科学・ペインクリニック講座 教授 井関 雅子 |
| 2. 痛みの多面的評価 | 善衆会病院/医師 恩田 啓 |
| 3. 慢性疼痛患者に対する看護師の役割 | 聖総合病院/看護師 本 幸枝 |
| 4. 慢性疼痛に対する運動療法 | 聖総合病院/理学療法士 二瓶 健司 |
| 5. 一緒に症例を検討しよう *グループワーク | |
| ◇ 閉会挨拶/全体のまとめ | 東前橋整形外科病院 理事長 釜谷 邦夫 |

参加申込方法 ◎ 以下の事前参加申込フォームよりお申込みください。
<https://forms.gle/2PZ2x92tmmB7zgF9>
※申込期限= 2月 5日 (日) まで * 定員になり次第締切
お問い合わせ先: 一般財団法人日本いたみ財団 事務局
Email: itamizaidan@gmail.com

主催: 厚生労働省「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業」関東甲信越地区
医療法人社団善衆会 善衆会病院 (群馬県)
共催: 順天堂大学 麻酔科学・ペインクリニック講座 一般財団法人日本いたみ財団

主催: 善衆会病院運動器慢性疼痛センター
共催: 順天堂大学麻酔科学・ペインクリニック講座
共催: 日本いたみ財団

② 参加人数と職種

参加者は 計20名. 参加者の内訳は, 医師5名(整形外科医:3名, 麻酔科医:2名), 看護師2名, 薬剤師4名, 理学療法士9名であった.

③ 当日の講義と症例検討

参加者は 計20名. 参加者の内訳は, 医師5名(整形外科医:3名, 麻酔科医:2名), 看護師2名, 薬剤師4名, 理学療法士9名であった.

| | | | |
|-------------|-----|------------------|-------------------------------------|
| 10:00-10:05 | 5分 | 開会の挨拶 | 善衆会病院 理事長 木村 雅史 |
| 10:05-10:10 | 5分 | 主催者からのアナウンス | 善衆会病院/医師 恩田 啓 |
| 10:10-10:20 | 10分 | アイスブレイク(グループ) | ファシリテーター |
| 10:20-10:50 | 30分 | 慢性疼痛概論・基礎知識 | 順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座教授 井関 雅子 |
| 10:50-11:05 | 15分 | 痛みの多面的評価 | 善衆会病院/医師 恩田 啓 |
| 11:05-11:10 | 5分 | (休憩) | |
| 11:10-11:30 | 20分 | 慢性疼痛患者に対する看護師の役割 | 星総合病院/看護師 本 幸枝 |
| 11:30-11:50 | 20分 | 慢性疼痛に対する運動療法 | 星総合病院/理学療法士 二瓶 健司 |
| 11:50-11:55 | 5分 | (休憩) | |
| 11:55-12:00 | 10分 | <症例提示>…司会 | 善衆会病院/医師 恩田 啓 |
| 12:00-12:20 | 20分 | グループワーク | ファシリテーター |
| 12:20-12:40 | 20分 | グループごと発表 | |
| 12:40-12:55 | 15分 | その後の経過 | 善衆会病院 慢疼チームスタッフ |
| 12:55-13:00 | 5分 | 全体のまとめ | 東前橋整形外科病院 理事長 釜谷 邦夫 |
| 13:00- | | 日本いたみ財団 事務局連絡 | |

*ファシリテーター：当センターのスタッフ4名(各グループ:参加者5名)

④ 受講者からの感想

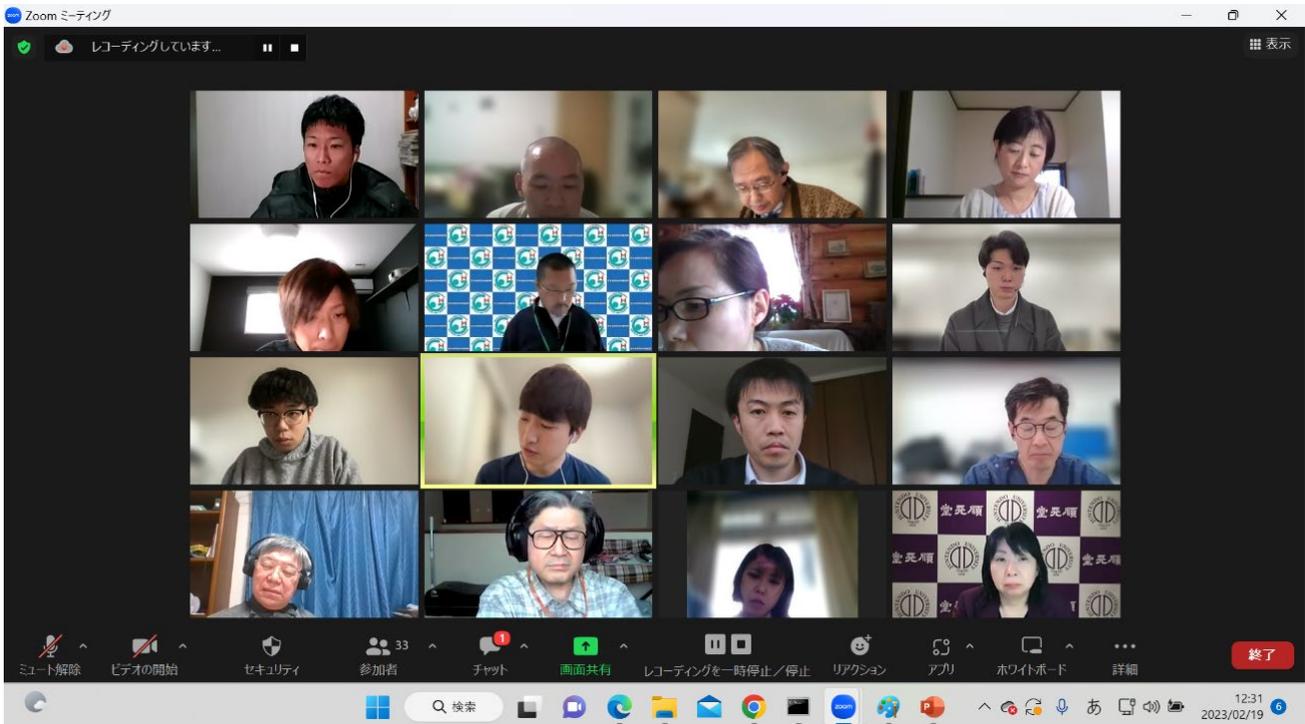
■ 良かった点

- ・ 多職種の意見を聞くことができたこと。
- ・ 慢性疼痛リエゾンを組んでいる病院の活動内容を拝聴できること、事例検討にて多職種にて検討を行う点は非常に勉強になりました。
- ・ 他職種の意見や考え方が学べたため知識の向上ができた。
- ・ 楽しく学べた。
- ・ グレープの方々、多職種でディスカッション出来て有意義でした、講師の先生方、臨床の現場の取組も勉強になりました。
- ・ 実際の症例を関わった他職種で紹介していただいて良かったです。
- ・ 慢性疼痛に理学療法士の方の関わりが知れてとても勉強になりました。
- ・ 当院で慢性疼痛のチームができた時はぜひ参加したいと思いました。
- ・ 多職種の治療介入方法を知ることができた。
- ・ 疼痛のメカニズムがわかった。他職種の意見を聞くことが出来た。
- ・ グループワークが充実していた。
- ・ ペースがちょうど良かった。
- ・ 新たな知識が習得できた。
- ・ 多職種の意見を聞けた点が勉強になりました。慢性疼痛に関して、多職種でのアプローチの重要性を理解することができました。
- ・ 他職種の先生方とグループワークを行い、慢性疼痛患者に対しての問診や評価の多面性に新たな解釈を広げられる機会となった。
- ・ 自分の施設では行われていないことを、知ることが出来た。痛みに対して、多面的評価の方法も多く知り、今回の研修会に参加できたことはとても有意義でよかった。
- ・ グループワークにて、多職種がどのように考えているのが分かった。
- ・ 症例に対するグループディスカッション、その後の解説がとてもよかった。

■ 改善して欲しい点等

- ・ 資料が配布されるとより良いと思いました。
- ・ 事例検討にて評価スライドを再提示していただくと検討しやすかったと思います。
- ・ 良かったです。
- ・ ディスカッションの時間症例2も時間長くてもいいのでお願いしたかったです。とにかく、よかったです。
- ・ 特にないです。zoomに入れず遅れてしまい申し訳ありませんでした。
- ・ 単語が難しかった。
- ・ onlineで続けてほしい。
- ・ とても勉強になった研修会でした。今後の臨床に活かしていこうと思います。今回はこういった学びの会を作って頂きありがとうございました。
- ・ グループワークの発表形式が口頭でして、時間があればパワーポイントなどを用いて視覚的に分かるような形式でも良いかなと思いました。ただ、その場合操作や時間がかかるため、簡潔に出来るかは配慮や検討が必要だと思います。
- ・ 今回、グループディスカッションのZoomミーティングは初めてで、とても緊張して参加しました。とても展開が早くて、特に、最後の症例からディスカッションする場面は、私が理解するのに時間がかかるせいか、もう少し患者紹介内容を把握する時間が欲しい、と感じました。でも、興味を持っていたので、あっという間の研修時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

⑤ 研修会風景



A screenshot of a Zoom meeting displaying a presentation slide. The slide title is '46歳 男性'. The main text is as follows:

主訴:

- ✓ 短時間の立位・歩行で右腰のはりと痛みが増悪しづらい。
- ✓ 歩行時に腰が抜ける感じで不安になる。
- ✓ 右下腿後外側のはりと軽度のしびれ。
- ✓ ベッドが横になるのが一番楽。座位保持は出来る。

現病歴:

当センター初診9カ月前から上記症状が出現し徐々に悪化。以前、他医で腰椎椎間板ヘルニアの手術を受けており、相談をしたが、手術適応はないとの判断を受けた。また、3カ月前に心療内科を受診し、抗うつ剤を処方された。本人がweb検索し当院受診。

On the right side of the slide, there is a small video thumbnail of a man in a suit, identified as 'オペレーション1'. The Zoom interface at the bottom shows 'レコーディングしています...' and '悪田 啓の画面を表示しています'. The toolbar includes 'ミュート', 'ビデオの停止', 'セキュリティ', '参加者' (33), 'チャット', '画面共有', 'レコーディングを一時停止/停止', 'リアクション', 'アプリ', 'ホワイトボード', and '終了'.